

久留米城下町

魚屋町遺跡

第一・二次調査

久留米市文化財調査報告書 第123集



一九九七

久留米市教育委員会

序

恵まれた自然環境を有し、交通の要所に位置する久留米市は、福岡県南部地区の中核都市として発展を続け、今も開発の槌音は止むことなく響き、その景観は日々変貌しつつあります。

特に久留米市西部の景観は、戦国時代末期に毛利秀包がこの地を本拠地としたことに端を発し、以後田中吉政・忠政を経て、元和7年（1621）有馬豊氏が入国、本格的な城下町の整備を行ったことが基礎となっていますが、現在では城下町の面影を捜すことは困難となっています。幸い、地下には予想以上に近世城下町の痕跡が残され、久留米市教育委員会ではその復元に向けて久留米城外郭や町屋の発掘調査を進めています。

今回の発掘調査もその一環として行ったもので、開発行為に伴う事前の発掘調査ではありますが、旧魚屋町・築島町に暮らした庶民の息吹を伝える遺構・遺物が発見されています。中でも、魚屋町と築島町の境界を示す溝を発見したことにより、平成7年度に実施した呉服町遺跡の成果と併せて、魚屋町の東西範囲を確定出来たことなどは、久留米の城下町研究に貴重な知見を挙げ得たものと存じます。

それらの成果を収録した本書が、埋蔵文化財の理解・普及の一助となり、教育・研究にご活用いただければ幸いに存じます。最後となりましたが、発掘調査に際しまして多大なご協力をいただきました、株式会社栗木工務店・積水ハイム株式会社、及び関係各位に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成9年1月31日

久留米市教育委員会

教育長 桑 野 善 吾

例 言

1. 本書は久留米市城南町に所在する久留米城下町魚屋町遺跡の第1・2次調査の発掘調査概要報告書である。調査は積水ハイム株式会社久留米支店新社屋建設に先立つ事前の調査であり、発掘調査から報告書作成に至る費用は、株式会社栗木工務店が負担した。
2. 発掘調査は株式会社栗木工務店と久留米市教育委員会との委託契約に基づき、久留米市教育委員会が主体となって実施したもので、第1次調査を文化部文化財保護課の水原道範、第2次調査を同じく園井正隆が担当した。
3. 現地発掘作業は、第1次調査が平成8年2月7日～同年6月10日・第2次調査を平成8年9月25日～同年11月21日の期間に行い、整理作業は平成8年4月1日～平成9年1月31日の期間に行っている。
4. 本書に掲載した図面は調査担当者の他、久富澄江・柁島ミドリ・今村美津子・田中樹子・渡辺しげ子・檜原初美・松延千里・荒巻美智代が作成し、畠中和子・副枝叶恵・龍直美が浄書した。遺構写真は調査担当者、出土遺物の写真は園井が撮影した。
5. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系を基に作成しており、図中の方位は全て座標北を示す。また、遺構の略表記は次の通りである。
SD…溝、SK…土坑、SE…井戸、SP…ピット、SX…その他の遺構
6. 今回の調査に関係する諸資料は久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管されている。
7. 魚屋町遺跡の遺跡調査番号は第1次調査が199533、第2次調査が199623である。遺物一覧表で示す5桁の遺物登録番号は遺跡調査番号を省略したものであり、本文・遺物写真中の番号は遺物登録番号を示す。
8. 本書はⅠ～Ⅳ・Ⅵを水原、Ⅴを園井が執筆し、編集は園井の補助を受けて水原が担当した。

目 次

Ⅰ. はじめに	1
Ⅱ. 位置と環境	2
Ⅲ. 調査の概要	3
Ⅳ. 第1次調査	5
Ⅴ. 第2次調査	24
Ⅵ. まとめ	36

I. はじめに

1. 調査の経過

魚屋町遺跡の発掘調査は、平成7年10月6日、地権者である株式会社栗木工務店より久留米市城南町13番地19～24、13番地48の7筆内における埋蔵文化財の有無についての確認依頼書が久留米市教育委員会文化財保護課に提出された(対象面積1535㎡)ことに始まる。これに対して文化財保護課では対象地の約25m西側の地点において実施した呉服町遺跡の調査成果などから、対象地には近世久留米城下町の町屋遺構が存在しており、また、開発規模も大きなものであることから発掘調査を行う必要がある旨を回答。その後、地権者側と協議を重ね、同年12月上旬には駐車場部分などを除いた事務所建設部分614㎡分について発掘調査を行うことで協議が成立。平成8年1月24日には調査依頼書、「法57条の2」による発掘届が提出された。これに対して同年2月5日には地権者と久留米市の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約書を取り交わし、同年2月7日より第1次調査を開始したが、その後、3月22日に地権者側より開発計画が全面的に変更された旨の通知がなされた。文化財保護課ではこれに対して、当初建物が建設される予定であった対象地西半分から、対象地のほぼ全面を調査の対象とする調査計画に変更したが、この時点では既に平成8年度前半の調査計画が出来ており、他の調査との兼ね合いから追加分については第1時調査に引き続き調査を行うことが出来ない旨を回答。再度協議を重ねる運びとなった。この協議は3月29日に成立。4月1日には平成8年度分の委託契約を取り交わし、6月10日には第1次調査が終了した。

第2次調査は9月25日より行い、同年11月21日に終了している。

2. 調査体制

今回の調査に係る調査体制は以下の通りである。

調査委託者： 株式会社 栗木工務店 代表取締役 竹下 實
営業部長 石井 正

調査主体： 久留米市教育委員会文化部文化財保護課
教育長 桑野善吾 部長 川原幸男

調査総括： 課長 古賀幸男 主査 萩原裕房 埋蔵文化財主査 櫻井康治

調査庶務： 古賀直喜

調査担当： 園井正隆 水原道範

発掘調査従事者

今村美津子・梅崎たえ子・岡 富士子・山下 久枝・高良トミ子・山田 治代・良永 洋子・
馬場 幸子・吉岡登美子・吉村 智子・野嶋 良枝・中野 悦子・久富 澄江・関 マスミ・
梶島ミドリ・梅崎 恵美・過能ツルノ・甲斐田久美子・熊丸千恵・中島 英樹・国武 三歳・
水原 昭範・高岡 威・山下 昭洋・香月 清子・小林美佐代・江崎 清美・山崎キヌ子・
緒方ヨシ子・吉田 常代・財木美智子・大石マサコ・田中レイ子・大塚チズ子・田中 樹子・
檜原 初美・藤木 幸子・丸山 幸・渡辺しげ子・渡邊やつ子・荒巻美智代・松延 千里・
井上喜代香・中尾美保子・半田 純香・鬼塚 成利・神代英一郎

整理作業従事者：中林貴美子・立石恵美・小川執津子・副枝叶恵・龍直美

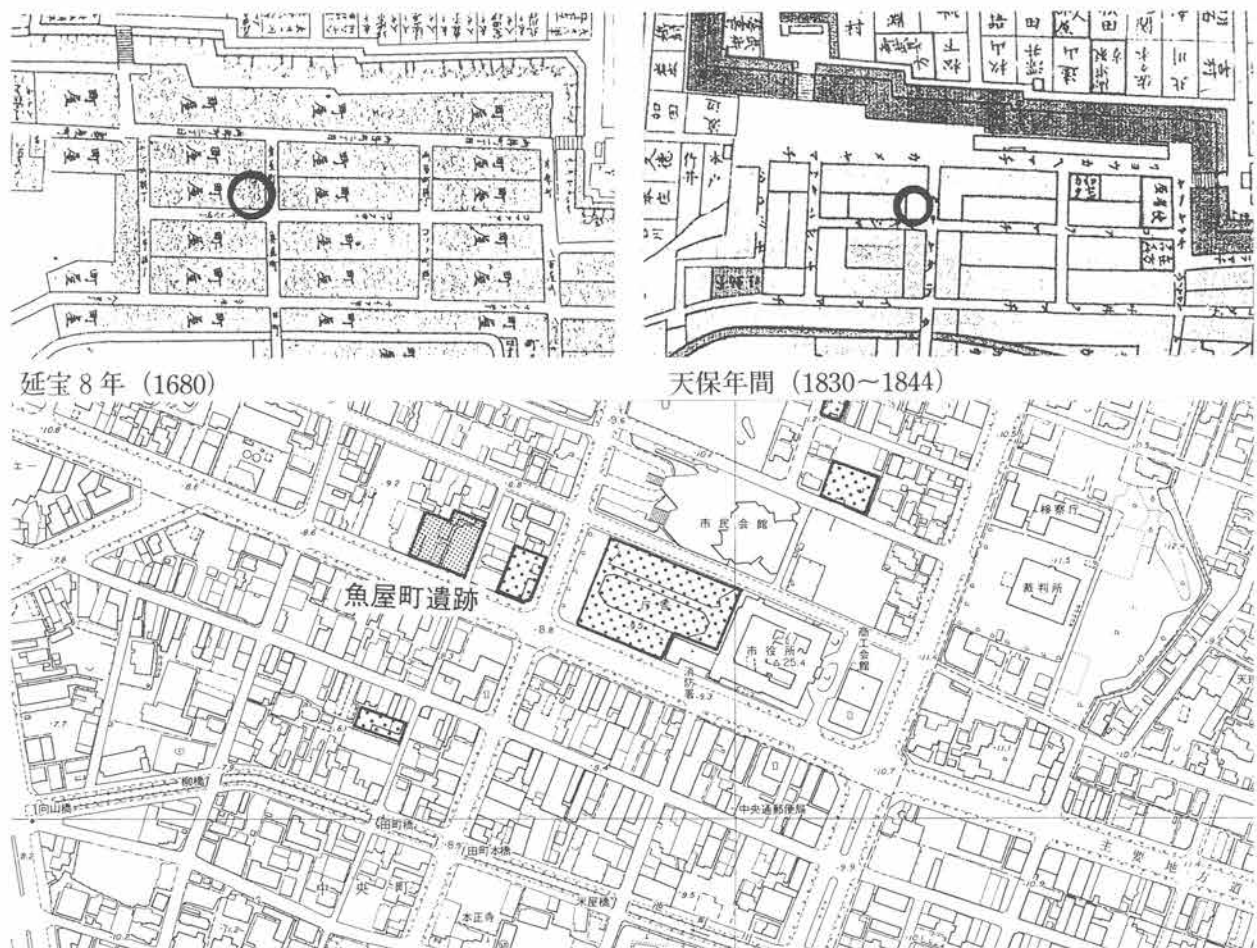
Ⅱ. 位置と環境

魚屋町遺跡は久留米市城南町に所在する。調査地付近は、東側に久留米市役所・裁判所・法務局などが存在する官庁街、西側にはＪＲ久留米駅を中心にゴム製品を生産する工業地区、南側には問屋街を中心とした商業地区、北側は久留米大学医学部などが所在する文教地区に囲まれ、民家が密集した場所である。

調査地は南にある池町川から北側へ延びる低地部に所在しており、標高８ｍ前後。台地上にあるＪＲ久留米駅や久留米市役所旧館付近とは約２ｍの標高差を測る。

近世の久留米城下町についての詳細は、『三本松町遺跡』（久留米市文化財調査報告書第74集）、及び『呉服町遺跡』（同第104集）の各報告書を参照して頂きたい。ここでは対象地付近に限定する。元和７年（1621）有馬豊氏が筑後北半分の領主として久留米を居地と定め、旧領主毛利秀包や田中吉政・忠政時代の町を改変し、城や城下町の本格的整備を開始したことに始まる。この整備は寛永期（1624～1644）にはほぼ完成したものと見られ、以後は城下町が拡大しながら明治を迎えている。

今回の調査の対象である魚屋町・築島町は、久留米城外郭南面に所在し城下を南北に走る魚屋町筋と東西に走る築島町筋に沿って短冊形の地割りが設定された両側町である。両町は有馬豊氏の城下町建設の初期段階に成立したと推定され、町内が全焼する程の火災に度々遭いながらも大きな改変を受けることなく明治を迎えている。調査地は大正～昭和初期には町屋の景観を失ったものらしく、戦前は大規模な料亭が建てられ、さらに、戦災や区画整理を受けた後には城南町の一部として町名も失われ、工場や倉庫となり、調査前には共同住宅・駐車場・印刷工場として使用されていた。



第1図 調査地周辺変遷図

Ⅲ. 調査の概要

1. 調査の概要

a. 第1次調査

第1次調査は当初の開発計画に基づき、対象地の南西部と西半分に調査区を設定。調査直前の旧家屋解体時に埋められていた町境溝の一部が発見されたことから旧町域の推定が可能となり、便宜上対象地南東部に設定した調査区を魚屋町地区、西半分に設定した調査区を築島地区とした。第1次調査では対象面積1,535㎡の内、魚屋町地区94㎡・築島町地区364㎡を調査している。

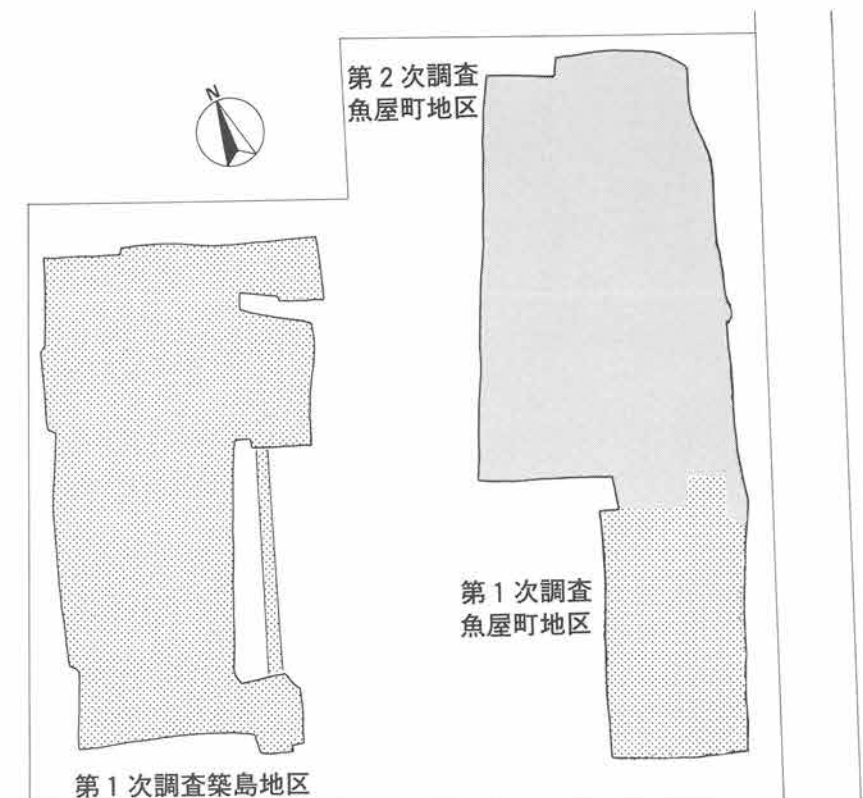
調査は平成8年2月7日に重機による掘り下げから開始された。まず、築島地区南端を掘り下げ層位を確認。この際に現地表から約70cm下の多量の炭化物が混入する焼土層を検出。まずこの層を掘り広げたところ幕末期の胞衣壺5基を検出したが、この層は著しく攪乱されていたため、さらに50cm掘り下げ、第2火災層面を調査することとし、この火災層上面のレベルで掘り広げた。本書中で築島地区上層としたものは、全てこの面で検出された遺構・遺物である。上層の調査は5月21日に終了。翌22日に30cm下の層迄重機で掘り下げ、下層の調査を開始、6月10日に終了している。

魚屋町地区は2月9日より重機による掘り下げを行い、ここも地表下約1mで検出された火災層面を掘り広げ、この面を上層とした。その後は人力で下層まで掘り下げ、6月4日に調査を終了。

b. 第2次調査

第2次調査は開発計画の変更に伴い、魚屋町地区の未調査部分265㎡を調査したものである。ここも幕末～明治から近世前期に至る3層の調査を行い、町屋の屋敷地割について貴重な知見が得られている。調査期間は平成8年9月25日～同年11月21日。

整理事業は平成8年4月1日より開始し、平成9年1月31日まで行った。

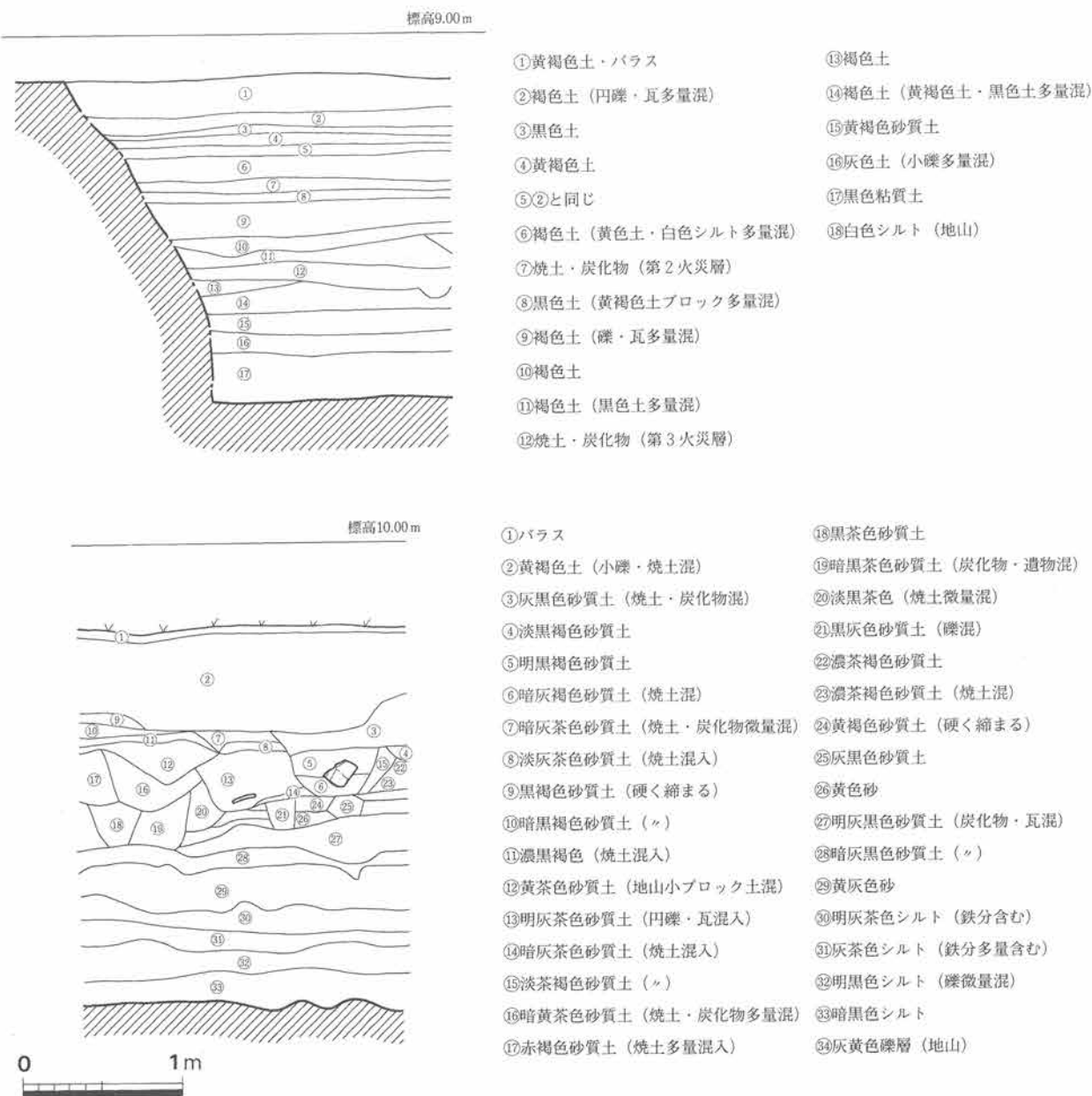


第2図 調査区設定状況図 (1/400)



第3図 調査地周辺状況 (東から)

2. 基本層序



第4図 築島地区・魚屋町地区基本土層図（1/40）

第4図上は築島地区西壁南端部に設定したトレンチの土層である。築島地区では上から順に昭和20年8月11日の空襲による火災層、幕末～明治頃の火災層、18世紀後半代と推定される火災層と3つの火災層が検出され、年代推定の手懸かりとなった。上層検出面は⑫層上面、下層検出面が⑮層上面に当たる。

第4図下は魚屋町側の土層で、第2次調査トレンチ東壁北端部における土層である。上層遺構は③層上面で検出、中層は⑲層上面で検出、下層が㉑層上面で検出されたものである。

Ⅳ. 第 1 次 調 査

1. 遺構・遺物の概要

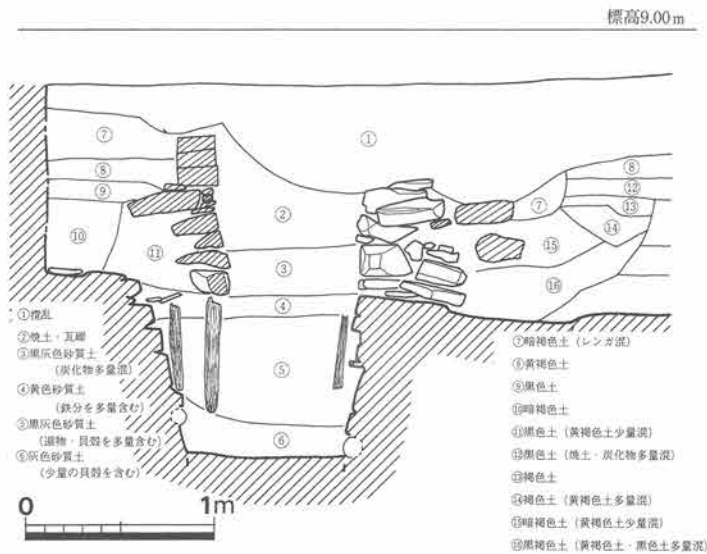
a. 築島町地区上層

築島町地区上層では南北溝1条、土坑19基、井戸5基、池状遺構1、ピット群などを検出した。調査区南部は建物遺構が検出されることを予想していたが、基礎石の可能性のある石7点と、基礎石抜跡1を検出したのみで、建物の復元を成し得ていない。

また、築島町地区でコンテナ103箱分、魚屋町地区でコンテナ37箱分に及ぶ出土遺物については第1～6表を参照されたい。



第5図 築島地区上層全景（北東から）



第6図 SD1南端部土層図（1/40）



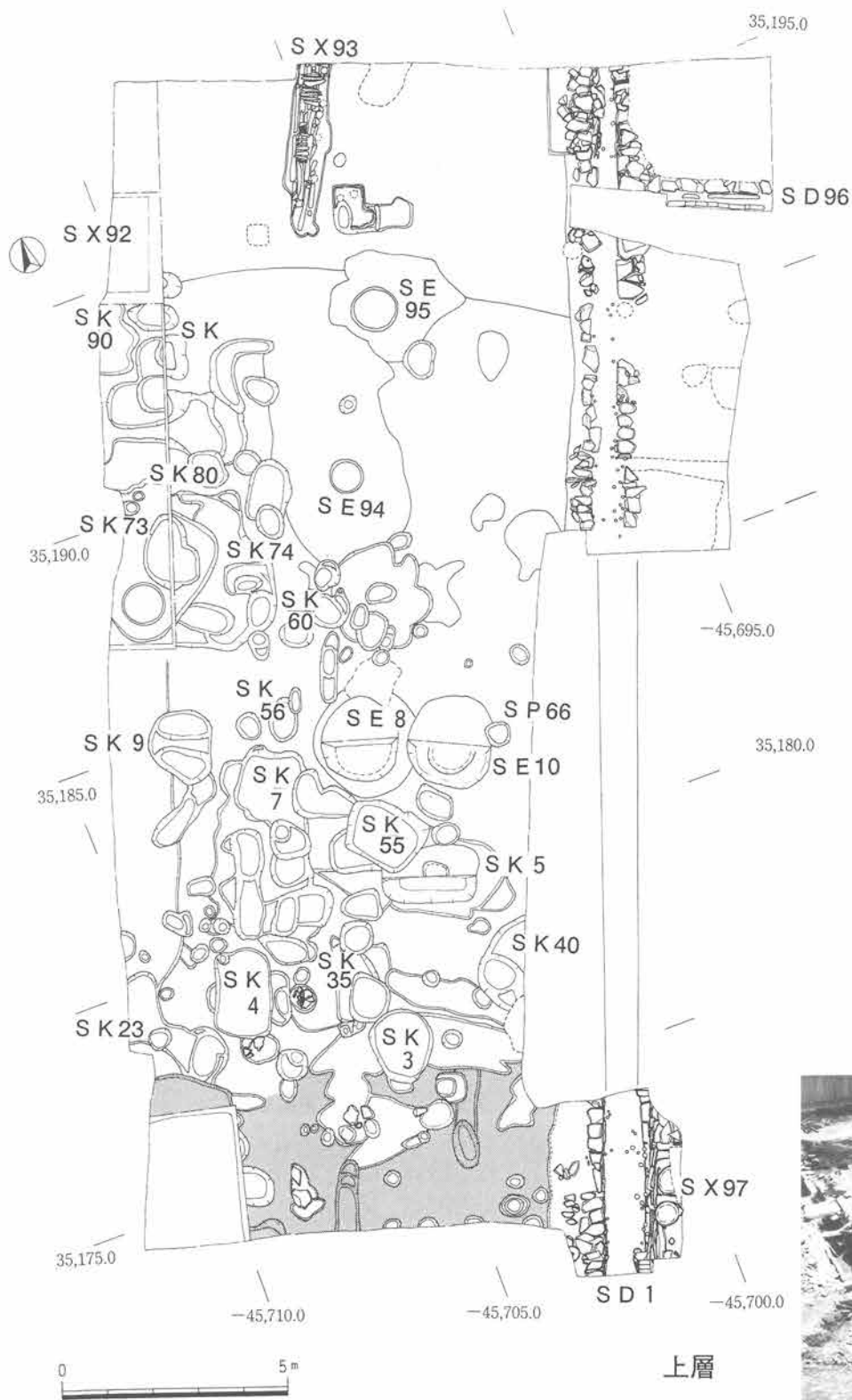
第7図 SD1南端部（北から）



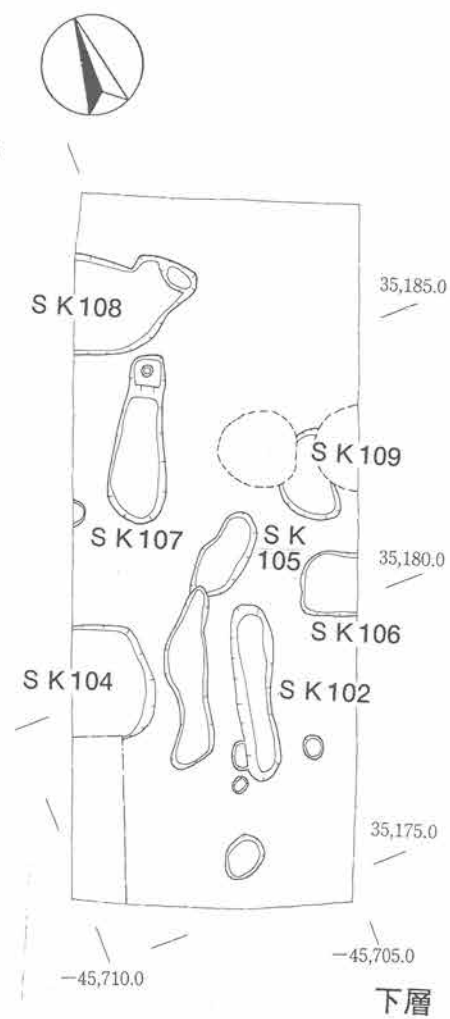
第8図 SD1北端部石垣基礎（西から）

溝

SD1（第6～8図） 調査区東端部で約27m分を検出した南北溝。魚屋・築島両町との境界をなすものと考えられる溝で、この溝より東側が魚屋町、西側が築島町となる。溝の両側には石垣を組み上げ、壁面を強化しているが、この石垣は最底部に径15cm程の松材の丸太で筏地形を組み、その上に厚さ3cm程の板材を敷いて基礎とし、さらにその上に幅30～40cm、厚さ10cm前後の板状の片岩を積み上げたものである。石垣は土層や石の積み方から見れば、魚屋町側では1度約50cm築島町側に石垣を張り出す形で積み加えられているが、これに対して築島町側では2度土地の嵩上げに応じて積み加えられており、当初の石垣が組まれた18世紀代には築島町側の土地が魚屋町側よりも一段低かったことが推定される。さらにその上にはレンガが6段積み、この溝が相当長期間利用されたことが窺えるが、最後は昭和20年の久留米空襲の際に生じた瓦礫によって埋め尽くされている。溝幅は当初の石垣の段階で約1.1m、石垣が追加された段階とレンガ壁になった段階で80cmを測り、深さは50～70cmを測るものと想定される。現地表から最底部までは約1.9m。走行方位はN-20°-E。



第9図 築島地区上層・下層遺構配置図 (1/150)



第10図 築島地区下層全景 (北東から)

S D 96 調査区北西部で検出した東西溝。上部はマンション建物基礎によって失われ、基底部のみが残されていた。北側はS D 1と同様に片岩で石垣を組んでおり、1段分が残存。南側は2段分が残存するレンガ積みである。東側は調査区外へ延びているが約3.4 m分を検出。幅20cm。底面レベルは東側から西側に向かって約20cmの比高差で低くなり、S D 1に接続している。この溝は焼土・炭化物で埋め戻されており、埋土中からは戦前の料亭で使用されていたと見られる白磁の盃が多量出土している。

土坑

S K 3 調査区南部で検出した。南北長1.6m、東西幅1.3～1.6m、深さ約30cmを測り、平面形は楕円形を呈する土坑である。底部は南側から北側に向かって緩やかに傾斜しており、僅かに焼土・炭化物が混入した黒褐色土中によって一度に埋め戻されている。

S K 4 調査区南西部で検出。南北長2.0m、東西幅1.3m、深さ約30cmを測る。平面形は長方形を呈する。底面はほぼ平坦。埋土は褐色土であるが、埋土中には多量の鉄滓・鞆羽口・炭が含まれており鍛冶に関する廃棄土坑であったことも考えられる。

S K 5 調査区南部で検出。東西長2.1m、南北幅1.5m、深さ60cm。平面形は長方形。埋土は褐色土で一度に埋め戻されている。

S K 7 調査区南部で検出。南北長4.0m、東西幅2.1m、深さ20～50cmを測る不整形土坑である。明褐色土の埋土からなる上層と、暗褐色土からなる下層に大別して掘り下げているが、下層は上層遺構によって切り込まれた別遺構と考えられる。

S K 9 調査区中央部で検出。南北長1.6m、東西幅1.3m、深さ25cmを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は炭化物が多量混入した灰色土からなる。

S K 23 調査区南西部で検出。遺構は調査区外へ延びているが、南北長2.3m分、東西幅2.1m分を検出、深さは20cmを測る不整形の土坑である。埋土は焼土と黄褐色土ブロックが僅かに混入した明褐色土。



第11図 S K35遺物出土状況(東から)

S K 35 調査区南部で検出。北端部と南端部を他の遺構によって切り込まれているが、南北長1.8m、東西幅0.9m、底面は南側から北側に向かって深くなっており、深さは30～40cmを測る。埋土は暗褐色土。

S K 40 調査区南部で検出。遺構は調査区外へ延びているが、南北長2.1m分、東西幅1.0m分を検出、深さは30cmを測り、平面形は楕円形と推定される。埋土は拳大の円礫を多量含んだ明褐色土。

S K 55 調査区南部で検出。S K 5を切り込む土坑である。東西長1.7m、南北幅1.3mを測り、平面形は長方形を呈する。深さ30cm。底面はほぼ平坦、埋土は黒褐色土。

S K 56 調査区中央部で検出。南北長90cm、東西幅60cmを測る。深さ40cm。平面形は楕円形で、底面はほぼ平坦。埋土は黒褐色土。

S K 60 調査区中央部で検出。南北長1.1m、東西幅90cm、深さ70cmを測る。埋土は黒褐色土。

S K 73 調査区中央西部で検出。S E 79掘方を切り込む土坑。南北長1.6m、東西幅1.2mを測る。埋土の褐色土中からは、パンコンテナ4箱分に及ぶ大量の鉄滓が出土しており、S K 4と同様に鍛冶関係の廃棄土坑の可能性がある。検出面より約50cm迄掘り下げたが、隣接するS E 79掘方が中位以下は空洞となっており、崩落の危険が生じたため完掘せず埋め戻している。

S K 74 S E 79とS K 73よりも先行する土坑。南北3.6m、東西2.2m分を検出した。深さは40cmを測る。埋土は黒褐色土。

S K 80 調査区中央部で検出。南北長80cm、東西幅70cm、深さ40cmを測る。平面形は楕円形。

S K 89 調査区北西部で検出。一辺1.2mの方形を呈する土坑。深さ55cm。埋土は黒色土。

S K 90 調査区北西部で検出。西側は調査区外へ延びているが、南北1.6m分、東西80cm分を検出した不整形な土坑である。深さ50cm。埋土は黒褐色土。

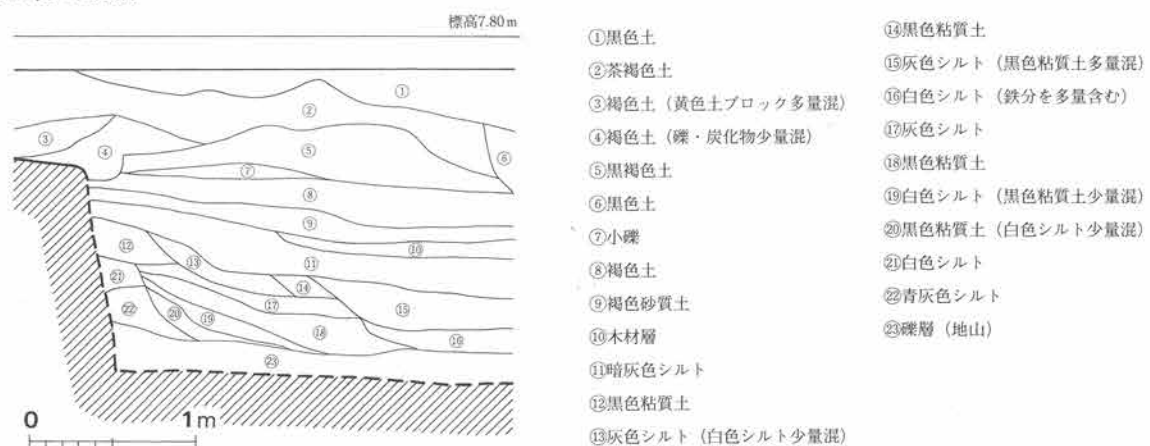
井戸

S E 8 調査区中央部で検出。径1.7m前後の円形に掘られた井戸で、検出面より約1.3m掘り下げたところで漆喰製径1mの井戸杵を検出、その後40cm掘り下げ、完掘はしていない。幕末～明治頃に使用されたものと考えられる。

S E 10 S E 8の東側に掘られた井戸。上部は一辺2m前後の隅丸方形に掘られ、検出面から1.2m付近に段を有し、それ以下は径約1mの円形に掘られている。検出面から1.6m迄掘り下げたが、井戸杵は検出されていない。S E 8よりも後出する。

その他、明治以降のものと思われる3基の井戸が検出されたが、掘り下げは行っていない。S E 79は径90cmの漆喰製井戸杵を有し、焼土・炭化物で埋め戻されていた。S E 94は径80cmの漆喰製井戸杵が4段分重ねられており、片岩製の板状石材で蓋をし埋められていた。深さ約3.5m。S E 95は径80cmの漆喰製井戸杵が3段分重ねられていたが、さらにはその下は桶状の木杵が置かれていた。深さ約3m。

その他の遺構



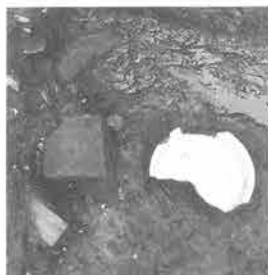
第12図 SX92断面土層図（1/40）



第13図 SX92土層状況（東から）

S X 92（第12～14図） 調査区北西部に設定した補助トレンチで検出された東西に延びる溝状遺構。調査区外へ延びるため全容は不明であるが、検出面から約1m掘り下げたところで南北4.3m分を検出。深さは約80cm。黒灰色粘質土中に多量の砂や腐食土が混入する自然体積の状況が観察されるが、その上部は5cm程の厚さに腐食した板材等が堆積、さらにその上には褐色土が積まれ、埋め戻されている。木材層より下層では大型獣の背骨と見られる骨片が1点出土したのみである。木材層からは

9枚重ねられた古寛永通宝、17世紀前半の磁器染付皿（238）1点、平瓦1枚、木簡（250 判読不能）



第14図 木材層遺物出土状況（南から）

1点が出土しており、この溝の下限は17世紀前半代と推定される。これらの状況から見て、呉服町遺跡S X 5堀状遺構と同様の溝の可能性が高い。

S X 93 調査区北端部で3.5m分を検出。幅約90cmの掘方中に、径10～15cm程の杉材と見られる丸太を組み合わせて筏地形を行っている。4.5m西側の調査区西壁面中にも同規模の筏地形が検出されており、一対の基礎である可能性もある。明治～昭和初期頃の遺構である。

b. 築島地区下層



第15図 S K 102遺物出土状況（東から）

上層調査終了後、上層調査区の南部約80㎡分について、第15層上面迄重機で約50cm掘り下げ、第15層上面を下層とした。下層では土坑8基、ピット群を検出。

土坑

S K 102（第15図） 調査区南部で検出。南北長3.5m、東西幅70cm、深さ40cmを測り、平面形は楕円形状を呈する。埋土の黒色粘質土中からは桶・折敷・下駄・漆碗などの木製品・竹製品が多量出土、共伴する陶磁器から17世紀中～同末頃に比定される。

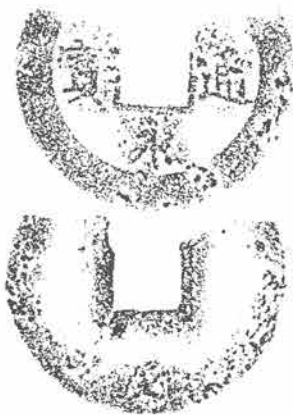
S K 103 S K 102の西側で検出された土坑。南北長3.7m、東西幅60～90cm、深さ15cmを測る平面楕円形状の土坑。遺物は桶などの板材が出土したのみ。S K 105よりも後出する。

S K 104 S K 104の西側で検出。遺構は調査区外へ延びているが、南北長2.2m分、東西幅1.7m分を検出。深さ55cm。遺物は漆碗3点の他、下駄・桶など木製品、陶磁器など17世紀後半代の遺物が出土。

S K 105 S K 103によって切り込まれる土坑。南北1.7m、東西85cm、深さ40cmを測り、平面形は楕円形状を呈する。漆碗・下駄各1点の他、陶磁器・煙管などが出土。

S K 106 調査区東端部中央で検出。遺構は調査区外へ延びるが、南北1.5m、東西1.3m分を検出。深さ20cm。遺物は下駄3点、黒漆塗折敷などの板材、17世紀後半代の磁器碗が出土。

S K 107（第19図） 南北長3.3m、東西幅1.1m、平面形は楕円形状を呈する土坑である。底面は北部が一段高くなっており、深さは30～60cmを測る。遺物は宝永通宝1点、木簡・桶・下駄などの多彩な木・竹製品、18世紀前半代～同中葉頃に比定される陶磁器が出土している。



第16図 宝永通宝拓影（原寸）

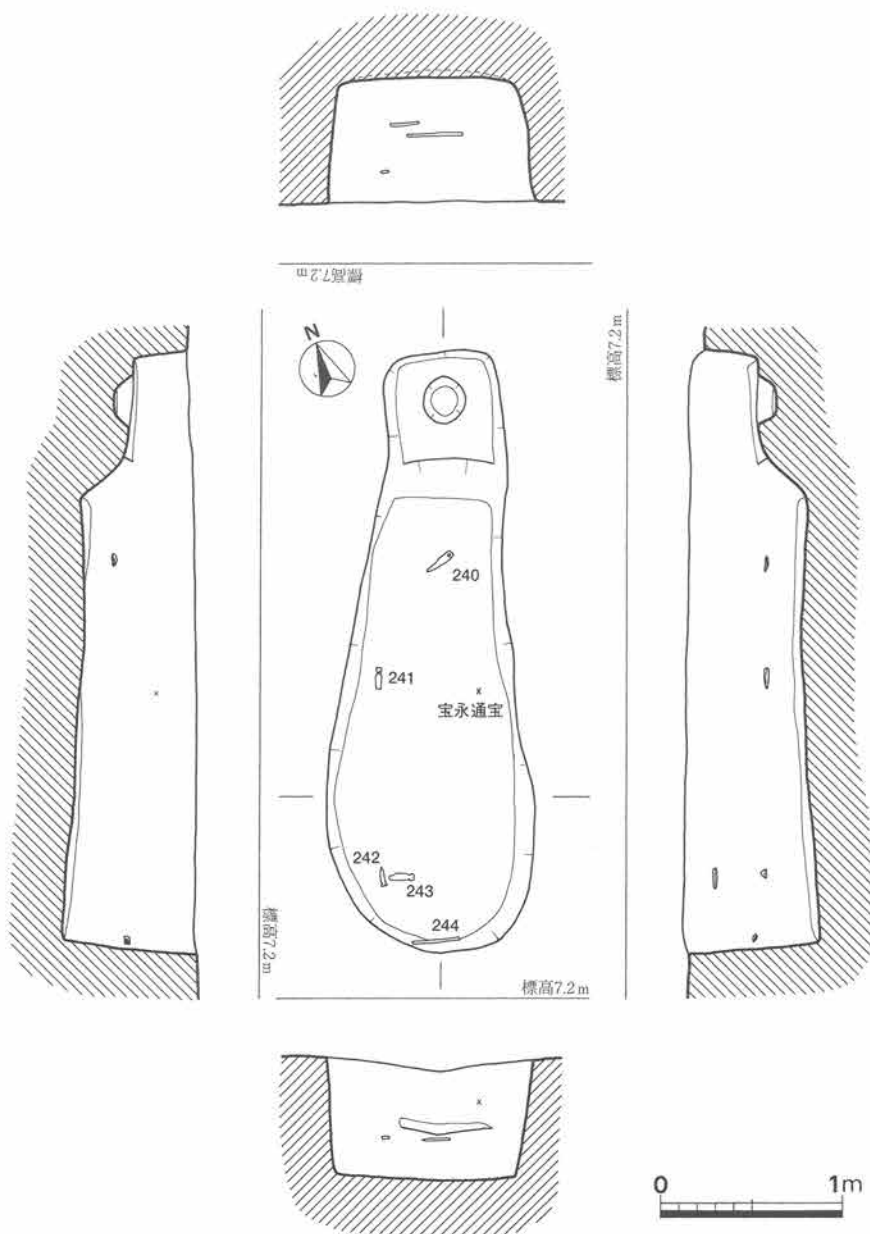


第17図 宝永通宝出土状況（東から）



第18図 木簡出土状況（東から）

宝永通宝は（第16～17図）は上部を欠損しているが、銭径37.60mm、内径27.71mm、銭厚1.16～1.24mmを測る。宝永5年（1708）初鑄の十文銭であるが、翌年1月には通用停止となっており、通用期間が極めて限定される資料である。



第19図 SK107実測図 (1/40)

深さは40cm。木簡・下駄・漆碗・桶・折敷などの木製品が17世紀前半代～同中葉の陶磁器と共に多量出土している。



第20図 SK108遺物出土状況 (東から)

木簡 (第29図12) は6点出土。240は柾目材で上部に穿孔されている。木簡学会分類の051型式。表面には「□□五拾目」、裏面に「□七月廿二日・□両替町平右衛門」と記載される。241も柾目材で上部が穿孔される032型式。表面には「井筒屋□右衛門…」、裏面は判読不能。242も柾目材。033型式。両面共に判読不能。243も柾目材。033型式。片面が「くるめうおや町・新兵衛」、もう片面は判読不能。244は一辺1.3cmの角材の一面に「寛□□□□□・二月十七日」とある。065型式。245は整理作業中に判明したもので、これも柾目の板材の一端に2ヶ所、もう一端に1ヶ所穿孔され、両面に墨痕があるが、判読できない。

SK108 (第20図) SK107の北側で検出した土坑。遺構は調査区外へ延びているが東西2.2m分、南北1.9m分を検出。

木簡 (第29図13) は4点出土。246は柾目材。065型式。長辺1.5cm、短辺1.0cmの断面長方形の角材の両端部に切り込みが入り、長辺面には表に「寛永□□□□七月廿六日長兵衛」の記載があり、裏面には一方の縁寄りに径2～3mmの穴が13ヶ所1.5～2.0cmの間隔で穿たれているが、この穴は貫通していない。折敷側板の一部もしくはその板材の転用品と推定される。247も柾目材。051型式。片面のみ墨痕があるが、判読不能。248はその形状から木簡としたもので、墨痕はない。木簡ならば059型式。249は矢羽根状の柾目の板材。両面に「人」状の断続する墨痕がある。

S K 109 S E 8 と S E 10 に切り込まれているが、南北長1.8m、東西は1.1m分を検出。深さ15cm。平面形は楕円形状を呈する。

c. 魚屋町地区



第21図 魚屋町地区上層検出遺構（北から）



第22図 魚屋町地区中層検出遺構（北から）



第23図 魚屋町地区下層検出遺構（南から）

魚屋町地区は現地表下約1mで火災層を検出。この火災層（厚さ約10cm）を調査した後、人力で順次下層へ掘り下げた。ここでは火災層検出面を上層、火災層下の褐色土を基調とした層を中層、褐色土の下で検出される黒褐色土層を下層として報告する。なお、調査地の東側のみ白色砂層が褐色土と黒褐色土の間に約3cmの厚さで存在する。上・中・下層の平均標高は約7.7・7.4・7.2mを測る。

上層

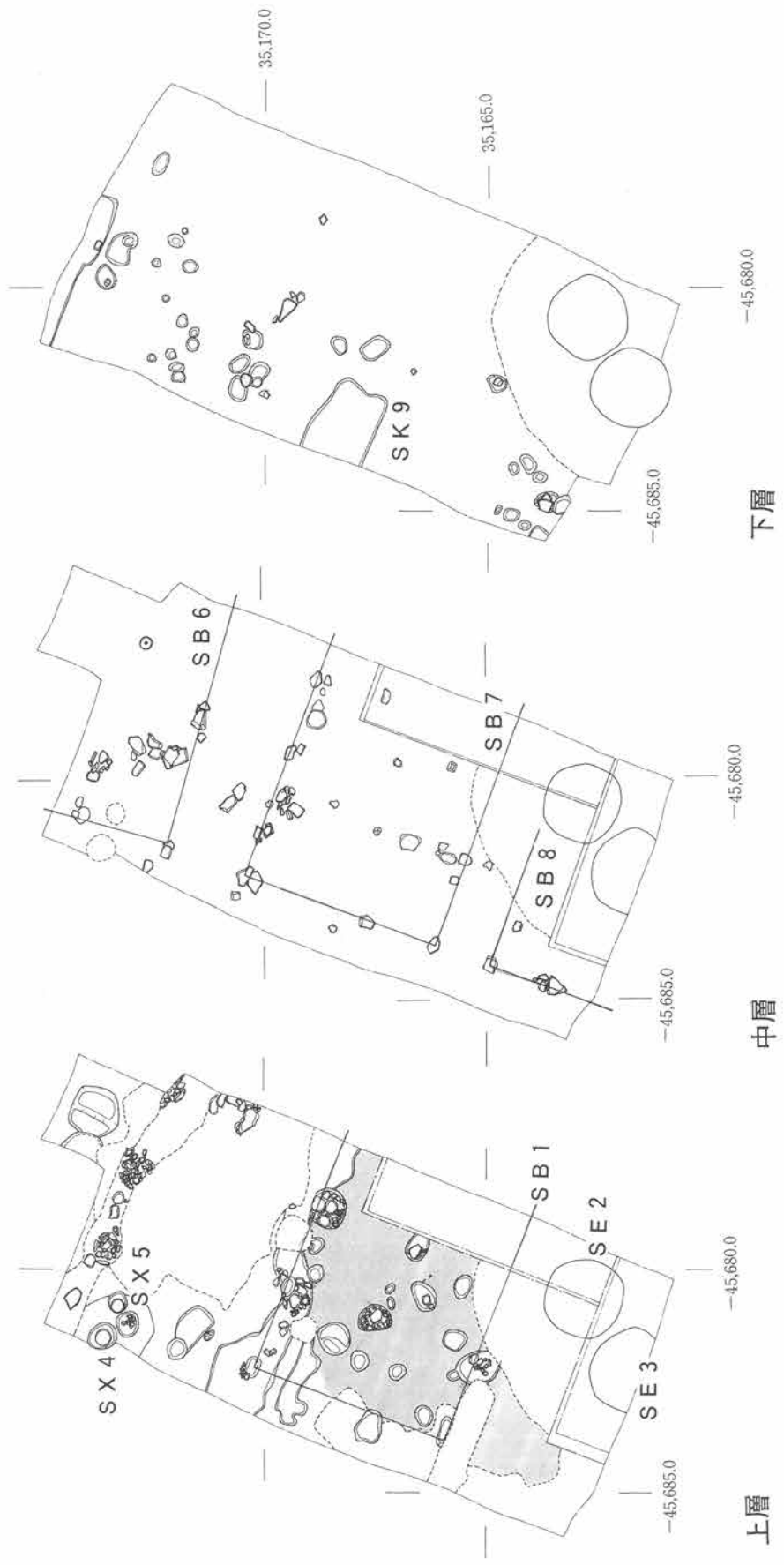
火災層中に包含される遺物から18世紀後半頃の町屋遺構が検出されることを予想していたが、19世紀～昭和50年代の攪乱が著しく、建物の状況は明確ではない。

S B 1 調査区中央部から南部にかけて基礎石を検出。調査区外へ延びる東西棟建物と推定される。基礎石は30～50cmの方形、または楕円形の石材を用い、1間約2mの間隔で据えられ、南北2間（4.3m）、東西は2間分が検出されている。基礎石は火災層を約15cm掘り込み、拳大の栗石を入れて安定させている。

S E 2・3 調査区南東側に所在する井戸。共に幅約20cmの板材を桶状に組んだ木枠を井戸枠として用いる。昭和20年8月11日の空襲を原因とした火災によって生じた瓦礫・焼土・炭化物を投げ込み、埋め戻している。S E 2は径1.7m、S E 3は径1.8mの規模を有する。

S X 4・5 調査区北東部で検出。S X 4は径60～70cm深さ25cmを測る楕円形の掘り方に、内径30cmの陶器製土管を直立させた遺構である。土管内には米粒大の炭化物が詰まっていたが、土管内面や掘り方底部には焼けた痕跡は観察されていない。S X 5も一辺45cm、深さ20cmの隅丸方形の掘り方内にS X 4と同様に内径25cmの陶器製土管を直立させて据えているが、S X 5の土管内は黄褐色粘質土が詰まっていた。この土管内や掘り方底部にも焼けた痕跡はなかった。

その他、調査区北部の大半を占める攪乱は19世紀以降のもので、拳大～人頭大の石が大量に投げ込まれていた。また、北端部を東西溝状に走る攪乱は、昭和30～40年代に建てられていた倉庫の基礎によるものである。



第24図 魚屋町地区上・中・下層遺構配置図 (1/100)

中層



第25図 SB 7 北側基礎石検出状況（西から）

火災層を除去した後に検出した基礎石群から3棟の東西棟建物を推定。この3棟の建物は基礎石上面の標高がほぼ7.6m台で揃うものである。

SB 6 調査区北部で検出。上層からの攪乱がこの層まで達しており、基礎石が失われた部分が多いが、40cm前後の板石の他、石臼を転用して基礎石とする。北側の基礎石の残存状況から判断すれば、東西柱筋の1間は約1.4m程と推定される。南北幅については調査区北側へ広がるため不明。

SB 7 SB 6の南側に1.9m間隔で検出した。40～50cmの板石を基礎石としているが、東西柱筋は2間分を検出。基礎石は1間約2m間隔で配置されている。南北幅は4.2mを測る。上層検出のSB 1とほぼ同じ場所に建てられており、SB 1はこの建物を火災後に立て直したものと推定される。

SB 8 確証はないが、調査区南西部で検出した基礎石と地割の状況から推定した建物である。SB 7とは1.7mの間隔を置く。

下層



第26図 下層遺物出土状況（北から）

SK 9と調査区西側に集中するピット群の他には遺構は検出出来なかったが、調査区中央部、及び南西隅ではそれぞれ中層基礎石を除去した後、下層基礎石を検出している。この基礎石群は上面の標高が7.4m台を測るもので、30～50cmの自然石が使用されている。基礎石は中層基礎石とほぼ同位置で検出されたことから、調査区中央部検出の基礎石が中層SB 7、南西部検出の基礎石が中層SB 8の前段階の建物と推定される。

SK 9 調査区中央部で検出。遺構は調査区外へ延びているが、東西1.7m分、南北1.4m、深さ15cm。褐色土の埋土中からは17世紀後半代～18世紀前半代の陶磁器や下駄3点などが出土しており、中層段階で掘られたものと見られる。

2. まとめ

以上、第1次調査検出遺構・遺物について概観した。築島地区上層では18世紀後半代～19世紀代の遺構・遺物が多く検出されたことから判断して、調査区南部で検出した火災層は、『米府年表』に見られる寛政11年（1799）11月28日に築島町・今町の90軒を焼いた火災によるものである可能性が高い。下層は17世紀中葉～同後半代と推定されるが、出土した木簡からは年号を示す「寛永」、町名を示す「両替町」「うおや町」、町人名が記される「井筒屋」など、城下町成立期の町屋や商人活動の具体的様相を示す貴重な資料が得られたことは大きな成果であった。町境溝SD 1や魚屋町地区屋敷割については、Ⅵ章を参照頂きたい。



(1) S D 1 出土遺物

(2) S D 1 出土遺物

(3) S D 1 出土遺物



(4) S K 3 ~ 5 出土遺物

(5) S K 7 出土遺物

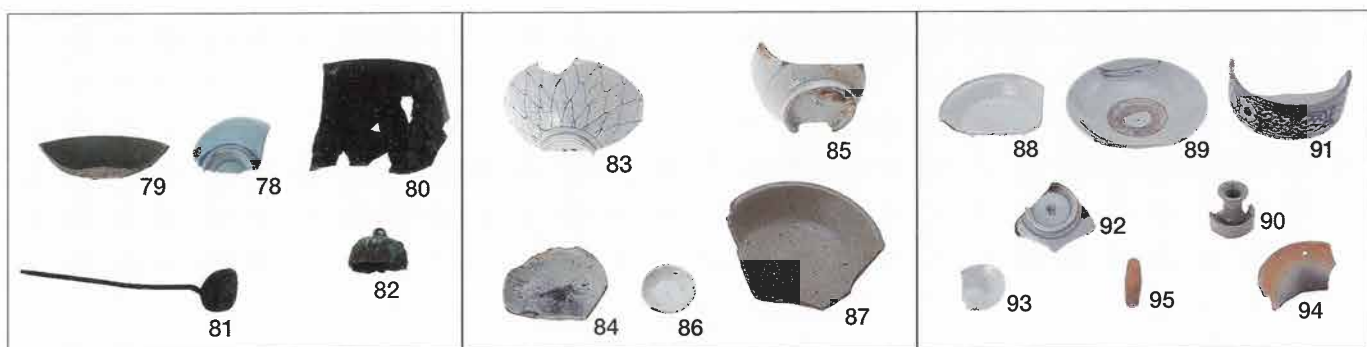
(6) S K 7 下層出土遺物



(7) S K 9 出土遺物

(8) S E 10 出土遺物

(9) S K 23 出土遺物



(10) S K 35 出土遺物

(11) S K 40 出土遺物

(12) S K 55 出土遺物

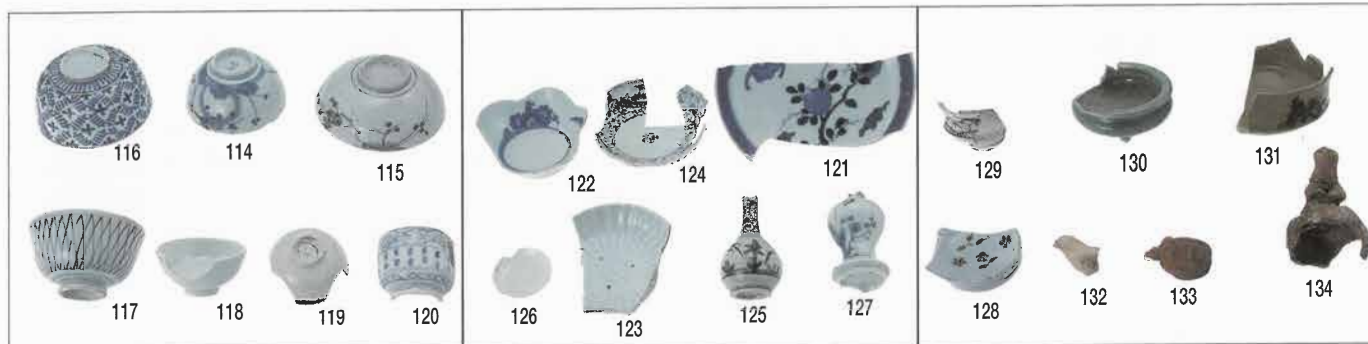


(13) S K 56 出土遺物

(14) S K 60 出土遺物

(15) S K 66 出土遺物

第27図 出土遺物① (築島地区)



(1) S K 73出土遺物

(2) S K 73出土遺物

(3) S K 73出土遺物



(4) S K 73出土遺物

(5) S K 74出土遺物

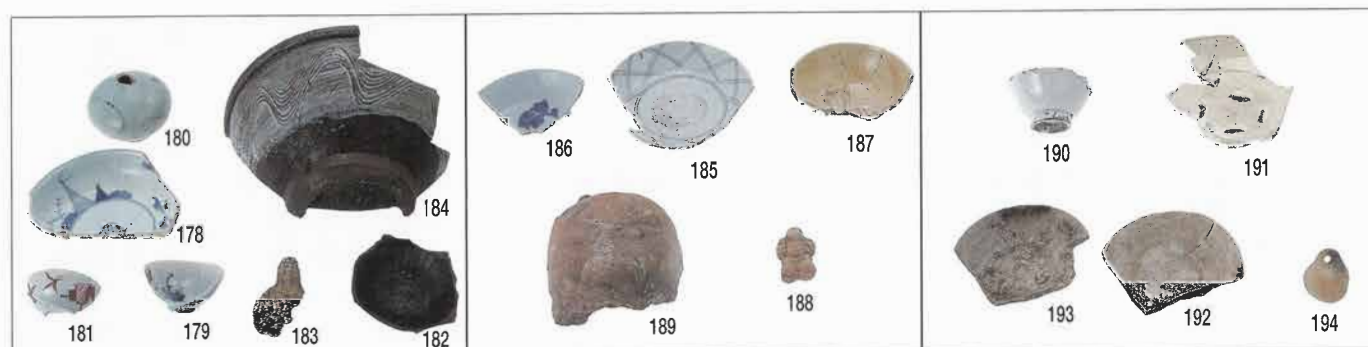
(6) S K 74出土遺物



(7) S K 80出土遺物

(8) S K 80出土遺物

(9) S K 81出土遺物



(10) S K 89出土遺物

(11) S K 90出土遺物

(12) S K 102・104出土遺物



(13) S K 105出土遺物

(14) S K 106出土遺物

(15) S K 107出土遺物

第28図 出土遺物② (築島地区)



(1) S K 107出土遺物

(2) S K 108出土遺物

(3) 胞衣壺①



(4) 胞衣壺②

(5) 胞衣壺③

(6) 胞衣壺④



(7) 胞衣壺⑤

(8) 北端部検出面西洋磁器

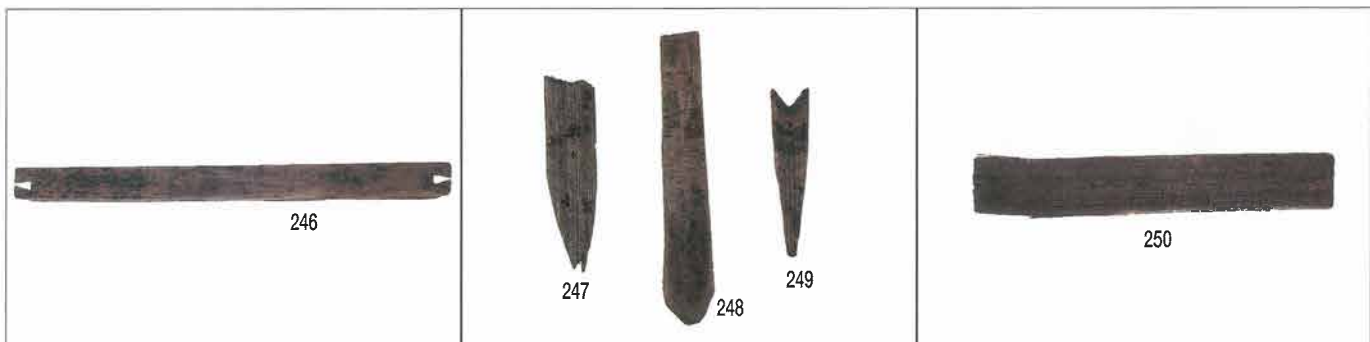
(9) 同裏面



(10) S X 92木材層出土磁器

(11) 攪乱出土遺物

(12) S K 107出土木簡



(13) S K 108出土木簡

(14) S K 108出土木簡

(15) S X 92木材層出土木簡



(1) 火災層出土遺物

(2) 火災層出土遺物

(3) 火災層出土遺物



(4) 褐色土出土遺物

(5) 褐色土出土遺物

(6) 褐色土出土遺物



(7) 褐色土出土遺物

(8) 黑褐色土出土遺物

(9) 黑褐色土出土遺物



(10) 黑褐色土出土遺物

(11) 黑褐色土出土遺物

(12) 黑褐色土出土遺物



(13) S K 1 出土遺物

(14) S K 1 出土遺物

(15) S P 3 出土遺物

第1表 出土遺物一覽表①

國史 遺物 番号	出土 遺構	器 種	法 量		装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	遺 物 登録番号
			口徑	底径	器高	総付・軸葉	文 様				
1	SD1	磁器 碗	10.0	4.4	5.4	染付	二重細目文	満 福	18C		00001
2	SD1	磁器 碗	10.5	4.1	5.1	染付	二重細目文	満 福	18C		00002
3	SD1	磁器 碗	5.8	4.6	6.1	青磁染付	見込菊文文 四方罽、松竹梅文	満 福	18C中		00003
4	SD1	磁器 碗	10.1	4.1	4.5	染付	朱羽文	満 福	18C		00004
5	SD1	磁器 碗	9.8	4.4	5.3	染付	丸菊花罽草文	満 福	18C		00005
6	SD1	磁器 碗	4.6	4.2	4.5	染付	窓絵松竹梅文	肥 前	18C後半		00006
7	SD1	磁器 碗	4.2	3.8	4.8	染付	桐文	—	18C後半		00007
8	SD1	磁器 蓋	9.4	3.5	1.4	青磁染付	海老文	—	18C中		00008
9	SD1	磁器 蓋	5.8	2.5	3.2	染付	海老文	—	18C		00009
10	SD1	磁器 蓋	4.6	2.1	2.7	白磁	梅文	肥 前	18C		00010
11	SD1	磁器 油壺	2.7	4.8	7.7	染付	梅文	肥 前	18C		00011
12	SD1	磁器 皿	14.4	7.2	3.0	染付	蔓草文	肥 前	18C後		00012
13	SD1	磁器 紅皿	4.2	1.2	1.5	白磁	印判五弁花	肥 前	18C		00013
14	SD1	磁器 碗	—	4.4	5.0	色絵	草花文	肥 前	18C		00014
15	SD1	磁器 瓶物	10.3	—	—	色絵	山水文	肥 前	—		00015
16	SD1	陶器 皿	11.6	4.4	4.1	褐釉	山水文	肥 前	—		00016
17	SD1	陶器 蓋	8.4	3.8	5.2	褐釉	藤文	肥 前	—		00017
18	SD1	陶器 蓋	8.4	—	3.7	—	—	肥 前	—		00018
19	SD1	磁器 皿	—	7.4	—	染付	草花文	朝 前	18C前		00019
20	SD1	磁器 碗	9.4	3.2	4.6	染付	文字	朝 前	18C前		00020
21	SD1	陶器 碗	10.6	4.3	5.8	染付	山水文	朝 前	18C前		00021
22	SD1	陶器 香炉	—	—	7.4	染付	山水文	朝 前	18C前		00022
23	SD1	陶器 皿	12.8	6.1	2.9	—	打刺毛目、竹文	現山焼	17C末-18C前		00023
24	SD1	陶器 深鉢	23.6	10.0	9.2	刷毛目	刷毛目	朝 前	18C前		00024
25	SD1	陶器 深鉢	20.6	9.8	7.4	染付	山水、唐草文	朝 前	18C前		00025
26	SD1	陶器 灯火具	6.7	6.0	4.5	鉄泥釉	—	—	—		00026
27	SD1	陶器 灯火具	5.3	3.8	3.0	褐釉	—	—	—		00027
28	SD1	陶器 福鉢	11.5	11.6	—	褐釉	—	—	—		00028
29	SD1	土師器 皿	12.6	7.7	2.3	—	—	—	—		00029
30	SD1	土師器 小皿	7.6	4.3	1.5	—	—	—	—		00030
31	SD1	土師器 燒塩釜	5.0	3.0	7.9	—	—	—	—		00031
32	SD1	土師器 瓶蓋蓋	7.6	7.7	1.8	—	—	—	—		00032
33	SD1	土師器 土鈴	—	—	5.5	—	—	—	—		00033
34	SD1	磁器 皿	—	—	—	—	—	—	—		00034
35	SK3	磁器 皿	12.9	7.5	2.8	染付	流水文	肥 前	18C後半		00035
36	SK3	土師器 瓶物	—	—	4.9	—	—	—	—		00036
37	SK4	磁器 碗	10.8	4.8	3.8	染付	—	—	—		00037
38	SK4	磁器 碗	13.6	4.9	5.2	染付	雲文、草文	肥 前	17C後半		00038
39	SK4	磁器 香炉	13.1	5.5	8.2	染付	棧羅山水文	肥 前	17C後半		00039
40	SK5	磁器 碗	9.5	3.9	5.1	染付	菊花文、草花文	肥 前	18C後半		00040
41	SK7	磁器 碗	9.8	3.7	5.4	染付	菊目文、草花文	肥 前	18C後半		00041
42	SK7	磁器 碗	8.2	3.2	4.0	染付	若松文、草花文	肥 前	18C後半		00042
43	SK7	磁器 碗	—	—	4.8	色絵	草花文	肥 前	18C後半		00043
44	SK7	陶器 碗	11.2	2.9	5.7	色絵	篋文	肥 前	18C		00044
45	SK7	陶器 碗	9.4	2.7	5.6	色絵	篋文	肥 前	18C		00045
46	SK7	陶器 土瓶	—	—	—	褐釉	草花文	肥 前	18C		00046
47	SK7	石製品 硯	長10.5	幅4.3	厚1.2	—	—	—	—		00047
48	SK7	石製品 硯	—	—	—	—	—	—	—		00048
49	SK7層	磁器 碗	10.2	4.1	5.0	染付	草花文	肥 前	18C後半		00049
50	SK7層	磁器 碗	10.2	4.4	5.2	染付	松竹梅文	—	—		00050
51	SK7下	磁器 盃	4.7	1.6	2.2	染付	菊花文、梅文	肥 前	18C		00051
52	SK7下	磁器 角皿	10.5 5.7	4.6	5.7	染付	格子に菊花文	肥 前	18C前半		00052
53	SK7下	磁器 皿	10.2	3.7	3.5	染付	草花文	肥 前	18C後半		00053
54	SK7下	陶器 碗	9.6	3.6	5.6	褐釉	篋文	肥 前	18C後半		00054
55	SK7下	陶器 皿	13.2	4.8	3.5	緑青釉	—	肥 前	18C後半		00055
56	SK9	磁器 皿	—	8.9	—	染付	宝珠文	朝 前	18C前半		00056
57	SK9	磁器 皿	—	—	—	染付	草花文	肥 前	18C後半		00057
58	SK9	磁器 蓋	7.4	—	1.9	青磁染付	棧羅山水文	肥 前	18C後半		00058
59	SK9	磁器 蓋	4.2	—	1.9	色絵	網目文、鳥文	肥 前	18C後半		00059
60	SK9	陶器 碗	9.2	3.6	4.6	褐釉	篋文	肥 前	18C後半		00060
61	SK9	陶器 角皿	8.5	3.8	2.4	褐釉	—	肥 前	18C後半		00061
62	SK9	陶器 灯明具	9.0	4.4	3.8	鉄泥釉	—	肥 前	18C後半		00062
63	SK9	陶器 油徳利	—	—	—	鉄泥釉	—	肥 前	18C後半		00063
64	SK9	土師器 小皿	7.6	4.5	1.5	—	—	肥 前	19C		00064
65	SK9	土師器 小皿	7.8	4.5	1.3	—	—	肥 前	19C		00065
66	SK9	土師器 小皿	7.0	2.2	1.6	—	—	肥 前	19C		00066
67	SK9	土師器 小皿	7.3	3.4	1.6	—	—	肥 前	19C		00067
68	SE10	陶器 土瓶	7.4	—	—	鉄釉	—	肥 前	19C		00068
69	SE10	陶器 土瓶	8.6	—	—	鉄釉	—	肥 前	19C		00069
70	SE10	陶器 花瓶	10.5	6.1	14.7	褐釉	—	肥 前	19C		00070
71	SE10	磁器 碗	10.6	4.5	5.6	染付	山花文	肥 前	19C		00071
72	SK23	磁器 碗	—	5.1	—	染付	荒磯文	肥 前	17C末		00072
73	SK23	磁器 皿	14.2	7.4	3.0	染付	菊唐草文	肥 前	18C後半		00073
74	SK23	磁器 皿	14.1	5.3	4.2	染付	花唐草文	肥 前	18C後半		00074
75	SK23	磁器 油壺	—	5.0	—	赤絵	三重園繪文	肥 前	18C後半		00075
76	SK23	陶器 皿	13.9	4.5	3.5	緑青釉	—	肥 前	18C後半		00076
77	SK23	陶器 灯明具	—	5.2	—	鉄釉	—	肥 前	18C後半		00077
78	SK35	磁器 碗	—	4.9	5.9	染付	松文	肥 前	18C後半		00078
79	SK35	陶器 皿	13.4	—	—	緑青釉	—	肥 前	18C後半		00079
80	SK35	陶器 水指	11.6	—	—	—	灰釉掛け分け	肥 前	18C後半		00080
81	SK35	銅製品 灰肥	長17.5	—	—	—	—	肥 前	—		00081
82	SK35	銅製品 鈴	—	—	—	—	—	肥 前	17C後半		00082
83	SK40	磁器 碗	14.4	5.1	6.1	染付	網目文	肥 前	17C後半		00083
84	SK40	磁器 皿	8.2	2.9	2.4	染付	吹墨	肥 前	—		00084
85	SK40	磁器 瓶	—	6.9	—	染付	宝珠文	肥 前	—		00085
86	SK40	磁器 紅皿	4.5	2.4	1.5	白磁	—	肥 前	—		00086
87	SK40	陶器 皿	14.4	4.9	3.5	灰釉	—	肥 前	17C前半		00087
88	SK55	磁器 小皿	10.6	5.2	2.7	白磁	—	肥 前	17C中		00088
89	SK55	磁器 皿	12.7	4.5	3.6	染付	松葉文	肥 前	17C中		00089
90	SK55	陶器 油差	2.5	—	—	灰釉	—	肥 前	—		00090
91	SK55	磁器 段重	11.5	8.8	5.0	染付	蜻蛉草文	肥 前	18C前半		00091
92	SK55	磁器 皿	—	—	—	染付	—	肥 前	18C前半		00092
93	SK55	磁器 紅皿	4.1	1.6	1.3	白磁	—	肥 前	—		00093
94	SK55	土師器 皿	9.8	—	1.5	—	—	肥 前	—		00094
95	SK55	土師器 土罐	長4.0	8.0	—	—	—	肥 前	—		00095
96	SK56	磁器 皿	10.6	3.7	3.5	染付	草花文	肥 前	17C中		00096
97	SK56	磁器 蓋	8.2	—	1.8	染付	山水文	肥 前	—		00097
98	SK56	磁器 蓋	11.4	—	—	染付	野棠文	朝 前	18C前半		00098
99	SK56	磁器 皿	14.0	7.0	3.3	染付	梅文、ソチツ文	朝 前	18C前半		00099
100	SK56	瓦質 人形	—	—	—	—	—	—	—		00100

第2表 出土遺物一覽表②

図版 通物 番号	出土 遺構	器 種	法 量		装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	通 物 登録番号	
			口径	底径	器高	総付・軸差						文 様
101	SK60	磁器 碗	11.8	6.4	6.1	染付	菊花文、波文	角 福	肥 前	寛政~天明	00101	
102	SK60	磁器 碗	11.4	6.8	6.3	染付	菊花文、波文	角 福	肥 前	寛政~天明	00102	
103	SK60	磁器 碗	11.4	6.3	6.3	染付	菊花文、波文	角 福	肥 前	寛政~天明	00103	
104	SK60	磁器 碗	7.7	2.7	4.1	染付	雲文	肥 前	18C後半	00104	00104	
105	SK60	磁器 盃	5.6	2.5	4.5	染付	唐子文	肥 前	19C~幕末	00105	00105	
106	SK60	磁器 神徳	—	4.1	—	染付	草花文	肥 前	18C	00106	00106	
107	SK60	磁器 碗	8.4	3.4	5.6	包絵	草花文	肥 前	18C後半	00107	00107	
108	SK60	陶器 碗	—	3.8	—	褐釉		肥 前	18C後半	00108	高台内墨書「七」	
109	SK60	陶器 碗	—	3.9	—	灰釉		肥 前	18C後半	00109	高台内墨書「中」	
110	SK60	陶器 小皿	—	—	—	染付	草花文	肥 前	18C前半	00110	00110	
111	SK66	磁器 盃	9.2	3.8	2.7	染付	鳥雲文	肥 前	19C前半	00111	00111	
112	SK66	磁器 碗	1.6	4.5	16.1	染付	蛸唐草、松竹梅文	肥 前	19C~幕末	00112	00112	
113	SK66	土師器 小皿	7.2	4.4	1.6	—		肥 前	18C後半	00113	糸切底	
114	SK73	磁器 碗	10.0	3.9	5.0	染付	雪輪文	肥 前	18C後半	00114	00114	
115	SK73	磁器 碗	12.4	4.5	4.7	染付	梅文	肥 前	18C後半	00115	見込蛇ノ目割ぎ	
116	SK73	磁器 碗	11.3	4.6	5.7	染付	十字四方棒	肥 前	18C後半	00116	00116	
117	SK73	磁器 碗	8.9	3.7	5.5	染付	網目文	肥 前	18C後半	00117	00117	
118	SK73	磁器 盃	7.1	2.7	3.8	染付	笹文	肥 前	18C後半	00118	00118	
119	SK73	磁器 盃	6.7	2.5	3.1	染付	笹文	肥 前	18C後半	00119	00119	
120	SK73	磁器 小碗	6.1	4.2	5.1	染付	流水文、異形字文	肥 前	18C後半	00120	00120	
121	SK73	磁器 皿	22.5	12.3	3.4	染付	石榴に蝙蝠文	肥 前	19C前半	00121	00121	
122	SK73	磁器 皿	—	7.9	4.7	染付	花唐草文	満 福	肥 前	18C前半	00122	
123	SK73	磁器 皿	13.2	8.2	3.6	白磁	—	肥 前	19C~幕末	00123	00123	
124	SK73	磁器 皿	—	7.4	5.0	染付	山水文	肥 前	18C前半	00124	00124	
125	SK73	磁器 碗	—	3.8	—	染付	蛸唐草に松竹梅文	肥 前	19C~幕末	00125	00125	
126	SK73	磁器 束皿	5.9	2.5	1.4	白磁	—	肥 前	19C	00126	00126	
127	SK73	磁器 神徳	2.2	4.4	10.1	染付	蛸唐草に松竹梅文	肥 前	18C後半	00127	00127	
128	SK73	磁器 碗	—	6.1	—	包絵	草花文	肥 前	18C後半	00128	00128	
129	SK73	磁器 香炉	6.8	2.9	4.8	包絵	草花文	肥 前	19C~幕末	00129	00129	
130	SK73	磁器 香炉	8.5	3.1	4.3	青磁	—	肥 前	18C	00130	00130	
131	SK73	陶器 碗	11.0	5.1	6.4	鉄釉	山花文	肥 前	18C	00131	00131	
132	SK73	土師質 人形	—	—	—	—	—	肥 前	18C	00132	鳥型	
133	SK73	土師質 人形	—	—	—	—	—	肥 前	18C後半	00133	ネズミ	
134	SK73	土師質 土鈴	—	—	—	—	—	肥 前	18C	00134	猿寒水ガラガラ	
135	SK73	瓦 棧瓦	—	—	—	—	—	肥 前	18C	00135	00135	
136	SK73	棧瓦	—	—	—	—	—	肥 前	18C	00136	⑤スタンプ2個	
137	SK73	棧瓦	—	—	—	—	—	肥 前	18C	00137	00137	
138	SK74	磁器 碗	11.4	4.9	6.5	染付	松竹梅文	角 福	肥 前	18C	00138	五弁花
139	SK74	磁器 碗	10.2	3.9	5.4	染付	梵字文	肥 前	18C後半	00139	00139	
140	SK74	磁器 碗	9.2	3.6	6.4	染付	草花文	肥 前	18C	00140	00140	
141	SK74	磁器 皿	9.9	6.1	1.8	染付	菊散らしに水裂文	肥 前	18C後半	00141	00141	
142	SK74	磁器 盃	8.4	5.8	6.9	染付	山水文	肥 前	17C末	00142	00142	
143	SK74	磁器 鉢	16.2	—	4.3	染付	草花文	肥 前	18C	00143	00143	
144	SK74	陶器 皿	11.6	4.8	2.8	包絵	草花文	肥 前	18C	00144	00144	
145	SK74	磁器 碗	11.4	4.5	6.6	青磁染付	四方棒文	角 福	肥 前	18C中~後半	00145	00145
146	SK74	磁器 碗	11.8	4.6	6.3	青磁染付	四方棒文	肥 前	18C中~後半	00146	00146	
147	SK74	陶器 碗	7.2	2.8	4.5	灰釉	—	肥 前	18C	00147	00147	
148	SK74	陶器 盃皿	12.0	4.8	2.8	灰釉	—	肥 前	17C末~18C	00148	00148	
149	SK74	陶器 盃皿	—	—	—	銅緑釉	笹文	肥 前	18C前半	00149	00149	
150	SK74	陶器 灯明皿	9.0	4.1	2.7	鉄釉	—	肥 前	18C前半	00150	00150	
151	SK74	土師器 鉢	20.1	14.8	3.8	—	—	銘・印	肥 前	17C後半	00151	底面に十字陽刻
152	SK74	土師質 人形	—	—	—	—	—	備 考	肥 前	18C後半	00152	布袋様
153	SK74	土師質 人形	—	—	—	—	—	備 考	肥 前	18C後半	00153	仏像
154	SK74	土師質 人形	—	—	—	—	—	備 考	肥 前	18C後半	00154	犬
155	SK74	ガラス	—	—	—	—	—	備 考	肥 前	18C後半	00155	00155
156	SK74	ガラス	—	—	—	—	—	備 考	肥 前	18C後半	00156	00156
157	SK80	磁器 盃	6.6	2.5	3.8	白磁	—	銘・印	肥 前	17C後半	00157	00157
158	SK80	磁器 盃	5.4	3.1	3.3	白磁	—	備 考	肥 前	18C後半	00158	00158
159	SK80	磁器 皿	13.3	7.2	3.7	染付	草花文	満 福	肥 前	18C後半	00159	00159
160	SK80	磁器 皿	12.1	6.4	3.1	染付	印版五弁花	肥 前	18C後半	00160	00160	
161	SK80	磁器 鉢	17.2	4.8	4.5	染付	草花文	肥 前	18C後半	00161	00161	
162	SK80	磁器 鉢	—	6.2	—	染付	—	肥 前	18C後半	00162	00162	
163	SK80	磁器 合子蓋	—	—	—	包絵	松竹梅文	肥 前	18C後半	00163	00163	
164	SK80	陶器 碗	9.5	3.4	4.7	鉄絵	笹文	肥 前	18C後半	00164	00164	
165	SK80	陶器 灯明皿	8.7	4.8	2.3	鉄釉	—	肥 前	19C	00165	00165	
166	SK80	土師器 灯明皿	7.5	3.2	1.8	—	—	肥 前	18C後半	00166	00166	
167	SK80	土師器 小皿	9.2	6.6	1.6	—	—	肥 前	19C	00167	00167	
168	SK80	瓦質 コマカ	—	—	—	—	—	肥 前	18C後半	00168	00168	
169	SK81上	磁器 皿	—	—	—	白磁	—	肥 前	18C後半	00169	00169	
170	SK81上	陶器 茶碗	4.2	3.6	2.8	鉄釉	—	肥 前	19C	00170	00170	
171	SK81上	土師質 人形	—	—	—	—	—	肥 前	18C後半	00171	00171	
172	SK81下	磁器 小碗	8.3	3.2	3.8	染付	草花文	肥 前	18C	00172	00172	
173	SK81下	磁器 碗	10.2	—	4.8	染付	亀甲唐草文	肥 前	17C後半	00173	00173	
174	SK81下	陶器 碗	4.8	—	—	—	—	肥 前	18C	00174	00174	
175	SK81下	土師質 人形	—	2.5	—	—	—	肥 前	18C	00175	00175	
176	SK81下	砥石	長6.7 幅3.4 厚1.4	—	—	—	—	肥 前	18C	00176	00176	
177	SK81下	るつぼ	4.5	3.6	—	—	—	肥 前	18C	00177	00177	
178	SK89	陶器 鉢	23.6	8.7	11.8	—	—	肥 前	18C	00178	00178	
179	SK89	磁器 盃	6.6	2.6	3.4	染付	草花文	肥 前	18C	00179	00179	
180	SK89	磁器 油壺	—	3.7	—	染付	梅文	肥 前	18C	00180	00180	
181	SK89	磁器 紅皿	6.6	2.5	2.8	包絵	羽子板に追羽根文	肥 前	18C末~幕末	00181	00181	
182	SK89	陶器 鉢鉢	—	2.8	4.6	鉄釉	—	肥 前	18C	00182	00182	
183	SK89	土師質 人形	—	5.8	—	—	—	肥 前	18C	00183	00183	
184	SK89	磁器 皿	14.6	8.6	4.2	染付	遠景	肥 前	18C前半	00184	00184	
185	SK90	磁器 皿	13.6	3.8	3.9	染付	格子文	肥 前	17C末~天明	00185	00185	
186	SK90	磁器 皿	13.6	—	3.3	染付	草花文	肥 前	18C前半	00186	00186	
187	SK90	陶器 碗	11.2	—	4.7	染付	樓閣山水文	肥 前	17C末	00187	00187	
188	SK90	土師質 人形	—	4.7	—	—	—	肥 前	18C	00188	00188	
189	SK90	土師質 人形	—	—	—	—	—	肥 前	17C中	00189	00189	
190	SK102	磁器 盃	6.9	2.8	3.4	白磁	—	肥 前	17C中	00190	00190	
191	SK102	陶器 皿	15.8	5.1	3.9	—	—	肥 前	17C前半	00191	00191	
192	SK102	土師器 皿	8.9	3.9	2.3	—	—	肥 前	17C前半	00192	00192	
193	SK104	土師器 灯明皿	8.8	4.9	1.9	—	—	肥 前	17C前半	00193	00193	
194	SK104	土師質 土鈴	—	4.5	—	—	—	肥 前	17C前半	00194	00194	
195	SK105	磁器 小皿	5.6	2.6	2.1	染付	—	肥 前	17C中	00195	00195	
196	SK105	磁器 皿	12.6	4.9	3.4	染付	日字風文	肥 前	17C中	00196	00196	
197	SK105	磁器 小瓶	—	2.9	—	染付	草花文	肥 前	17C	00197	00197	
198	SK105	磁器 蓋	—	—	—	染付	—	肥 前	17C後半	00198	00198	
199	SK105	磁器 身	—	—	—	—	—	肥 前	17C後半	00199	00199	
200	SK105	磁器 小皿	—	—	—	—	—	肥 前	17C後半	00200	00200	

第3表 出土遺物一覧表③

図版 遺物 番号	出土 遺構	器・種	法 量		装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	遺 物 登録番号
			口径	底径・器高	文 様	その他					
201	SK105	磁器 小皿	6.4	2.8 1.7	草花文			肥 前	17C後半		00201
202	SK105	陶器 皿	5.6	—	欄刷毛目			肥 前	17C		00202
203	SK105	陶器 水指	—	—	—	—		肥 前			00203
204	SK105	陶器 香炉	19.6	7.6 6.9	欄刷毛目			肥 前			00204
205	SK105	土師器 小皿	6.9	3.0 1.9						糸切底	00205
206	SK106	磁器 碗	11.3	6.2 6.1	草花文			肥 前	17C後半		00206
207	SK106	磁器 瓶か	—	8.8	—	流掛					00207
208	SK107	磁器 碗	9.9	4.0 4.8	松竹梅文			肥 前	18C		00208
209	SK107	磁器 碗	8.6	3.1 4.2	松竹梅文			肥 前	18C		00209
210	SK107	磁器 碗	9.9	3.8 4.9	二重細目文		渦 福	肥 前	18C		00210
211	SK107	磁器 碗	10.0	—	水雲に雲輪文			肥 前	18C		00211
212	SK107	磁器 皿	12.8	4.3 4.5	格子文			肥 前	18C	見込蛇ノ目割ぎ	00212
213	SK107	磁器 皿	13.2	4.8 3.6	雲雲島文			肥 前	17C前半	高台砂付着	00213
214	SK107	磁器 紅皿	6.1	—	草花文			肥 前	18C後半	内側に紅付着	00214
215	SK107	磁器 碗	11.6	—	—	—		中 国		外面に毛彫り	00215
216	SK107	磁器 皿	—	8.3 4.0	梅花文、山水文		朝	朝妻焼	18C前半		00216
217	SK107	磁器 鉢	—	—	唐草文		朝	朝妻焼	18C前半		00217
218	SK107	陶器 皿	14.4	7.2 3.3	草花文			肥 前	18C前半		00218
219	SK107	陶器 碗	—	4.1	—	欄刷毛目		肥 前	18C前半		00219
220	SK107	陶器 碗	9.9	3.5 5.3	拵分			肥 前			00220
221	SK107	陶器 皿	—	5.4 4.4	欄刷毛目			肥 前			00221
222	SK107	陶器 茶入	2.3	2.3 6.1	欄刷毛目			肥 前			00222
223	SK108	磁器 碗	12.4	4.9 6.8	白磁			肥 前			00223
224	SK108	磁器 皿	6.7	4.8 3.1	菊文			肥 前	17C中		00224
225	SK108	磁器 小皿	10.6	—	草花文			肥 前	17C中		00225
226	SK108	陶器 香炉	15.6	5.5 7.3	欄刷毛目			肥 前			00226
227	SK108	陶器 皿	23.6	7.0 4.7				肥 前	17C前	砂目	00227
228	SK108	陶器 皿	—	5.5	—			肥 前	17C前	砂目	00228
229	1	陶器 瓶衣蓋	10.6	10.6 11.7	緋文			肥 前	19C～幕末	土瓶転用品	00229
230	2	土師器 瓶衣蓋	15.1	13.3 2.1					19C～幕末	新寛永1枚共伴	00230
231	土師器	瓶衣身	12.5	12.7 12.4					19C～幕末	火消密転用品	00231
232	3	陶器 瓶衣身	9.5	5.5 11.8	欄刷毛目				19C～幕末	土瓶転用品	00232
233	4	陶器 瓶衣蓋	—	15.1	—	—			19C～幕末	底面型書「カトヤ」	00233
234	土師器	瓶衣身	20.4	15.2 14.2					19C～幕末	火消密転用品	00234
235	5	磁器 瓶衣蓋	10.0	3.3 4.0	袋付			大 阪	19C～幕末	陶器転用品	00235
236		陶器 瓶衣身	6.7	5.4 10.8	緑釉				19C～幕末	土瓶転用品	00236
237	北宗源 彫出箱	磁器 皿	11.2	7.1 3.1				イギリス	19C	DAWSON窯	00237
238	磁器 皿	21.8	7.2 3.2	袋付	七宝緑山水文			肥 前	17C中		00238
239	複瓦	磁器 小皿	10.9	5.6 1.9	金彩				近代		00239
240	SK107	木簡 ①			七井二出間開有雷門					051型式	00240
241	SK107	木簡 ②			井筒屋...					032型式	00241
242	SK107	木簡 ③			判読不能					033型式	00242
243	SK107	木簡 ④			くるめうや町新衣箱					065型式	00243
244	SK107	木簡 ⑤			寛〇〇七年二月十七日					011型式	00244
245	SK107	木簡 ⑥			判読不能					065型式	00245
246	SK108	木簡 ①			寛永一七月廿六日長柄箱					065型式	00246
247		木簡 ②			判読不能					051型式	00247
248		木簡 ③			判読不能					059型式	00248
249		木簡 ④			矢羽根紋様					011型式	00249
250	北宗源 トレンチ	木簡 ①			判読不能					00250	00250
251	火災層	磁器 皿	13.9	10.2 2.8	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00251
252	火災層	磁器 皿	13.5	10.3 2.7	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00252
253	火災層	磁器 皿	13.8	10.3 3.1	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00253
254	火災層	磁器 皿	13.8	10.3 3.0	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00254
255	火災層	磁器 皿	13.8	9.6 3.2	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00255
256	火災層	磁器 皿	13.8	10.3 2.8	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00256
257	火災層	磁器 皿	13.6	9.9 3.2	袋付	七宝緑山水文		角 福	肥 前	18C後半	00257
258	火災層	磁器 碗	—	4.6	—	松竹梅文		富貴長春	肥 前	18C後半	00258
259	火災層	磁器 皿	—	7.8	—	山水文	五和花	朝	朝妻焼	18C前半	00259
260	火災層	磁器 皿	11.4	6.1 2.6	菊花文			角 福	肥 前	18C後半	00260
261	火災層	磁器 香炉	6.4	—	5.4 青磁			肥 前			00261
262	火災層	陶器 碗	10.2	4.4 6.1	灰釉	欄刷毛目		肥 前			00262
263	火災層	陶器 碗	9.4	3.7 5.3	灰釉	欄刷毛目		肥 前			00263
264	火災層	陶器 碗	10.1	5.5 6.2	灰釉	欄刷毛目		肥 前			00264
265	火災層	陶器 碗	11.4	4.7 6.6	褐釉			肥 前	18C		00265
266	褐色土	磁器 皿	13.4	5.3 3.8	袋付	菊花・七宝文		肥 前	17C		00266
267	褐色土	磁器 皿	—	5.3	—	袋付	日字暖風文	肥 前	17C中		00267
268	褐色土	磁器 皿	14.4	5.4 5.2	袋付	牡丹花文		肥 前	17C中		00268
269	褐色土	磁器 碗	11.4	5.2 5.9	袋付	宝珠文		肥 前	17C中		00269
270	褐色土	磁器 碗	10.6	4.8 7.3	袋付	梅文		肥 前	17C中		00270
271	褐色土	磁器 碗	11.7	4.8 6.3	袋付	花唐草文		大明年製	肥 前	17C中	00271
272	褐色土	磁器 碗	11.6	4.8 6.4	袋付	半菊花文		肥 前	17C中		00272
273	褐色土	磁器 碗	8.2	5.1 7.5	袋付	四方唐文		肥 前	17C中		00273
274	褐色土	磁器 盃	5.1	2.0 3.9	白磁			肥 前	17C中		00274
275	褐色土	磁器 盃	6.6	2.8 3.2	白磁			肥 前	17C中		00275
276	褐色土	磁器 小皿	8.2	2.9 2.0	白磁			肥 前	17C中		00276
277	褐色土	磁器 瓶	3.9	4.6 11.3	袋付	欄目文		肥 前	17C中		00277
278	褐色土	土師質 人形	—	—	—				17C中	馬と人物	00278
279	黒曜土	磁器 鉢	11.2	5.7 4.8	青磁袋付	宝珠文、龜文		中 国	17C前半		00279
280	黒曜土	陶器 皿	12.5	3.9 4.2	緑釉			肥 前	17C前半		00280
281	黒曜土	陶器 皿	14.0	4.6 4.3	灰釉			肥 前	17C前半		00281
282	黒曜土	陶器 皿	13.2	4.3 3.4	灰釉			肥 前	17C前半	溝緑皿	00282
283	黒曜土	陶器 皿	12.5	4.6 3.8	灰釉			肥 前	17C前半	溝緑皿	00283
284	黒曜土	陶器 皿	12.6	3.9 2.9	灰釉			肥 前	17C前半	溝緑皿	00284
285	黒曜土	陶器 皿	12.7	4.2 3.7	灰釉			肥 前	17C前半	溝緑皿	00285
286	黒曜土	陶器 皿	12.7	4.9 3.8	灰釉			肥 前	17C前半	溝緑皿	00286
287	黒曜土	陶器 皿	12.6	4.3 4.1	灰釉			肥 前	17C前半	溝緑皿	00287
288	黒曜土	陶器 碗	—	4.8 7.9	灰釉			肥 前	17C前半		00288
289	黒曜土	陶器 碗	—	4.0 5.4	灰釉			肥 前	17C前半		00289
290	黒曜土	土師質 人形	—	—	—	獅子か馬			17C前半		00290
291	黒曜土	磁器 皿	—	2.8	袋付			中 国	唐宋-元明		00291
292	黒曜土	陶器 香合か	3.8	2.5 2.6	鉄絵	縦線、雷文		肥 前	17C初		00292
293	黒曜土	陶器 角皿	12.5	4.3 4.5	鉄絵	草花文		肥 前	17C初		00293
294	SK1	陶器 紅甲皿	10.1	4.6 2.9				肥 前	18C		00294
295	SK1	土師器 小皿	9.3	4.4 2.4						糸切底	00295
296	SK1	磁器 碗	—	3.4 4.5	袋付			肥 前	17C後半		00296
297	SK1	磁器 瓶	—	7.2	—	山水文		肥 前	17C後半		00297
298	SK1	土師質 盃	9.3	9.4 7.5							00298
299	SK1	陶器 搦鉢	—	8.4	—			肥 前			00299
300	SP3	陶器 皿	12.0	4.0 4.2	灰釉			肥 前	17C初	胎土目	00300

第4表 魚屋町遺跡出土銭貨一覧表①

(魚屋町地区)

番号	銭 名	出土遺構	層 位	レベル (m)	銭径A (mm)	B (mm)	内径C (mm)	D (mm)	銭 厚 (mm)	重量 (g)	備 考
1	寛永通宝	中層	褐色土	7.589	25.50	25.50	19.90	20.30	1.5	3.05	裏面「文」
2	洪武通宝	中層	褐色土	7.386	22.10	22.15	18.9	18.60	1.0~1.20	2.55	
3	洪武通宝	中層	褐色土	7.444	—	—	—	—	1.45	0.95	1/3片
4	洪武通宝	中層	褐色土	7.456	23.35	23.10	19.15	18.80	1.99~2.0	2.85	
5	洪武通宝	中層	褐色土	7.463	22.30	22.30	17.80	18.00	1.20~1.30	2.60	
6	洪武通宝	中層	褐色土	7.488	22.65	22.65	18.80	18.85	1.20~1.50	2.0	1/4穴
7	寛永通宝	中層	褐色土	7.426	24.30	24.30	18.80	19.80	1.60~1.70	3.4	古寛永
8	洪武通宝	中層	褐色土	7.405	—	—	—	—	—	—	破片
9	寛永通宝	中層	褐色土	7.403	24.60	24.80	19.30	18.80	1.80~1.90	3.4	古寛永
10	洪武通宝	中層	褐色土	7.421	21.30	21.70	17.10	17.0	1.30~1.60	1.2	
11	洪武通宝	中層	褐色土	7.476	—	—	—	—	1.45	1.2	破損
12	洪武通宝	中層	褐色土	7.466	21.9	22.0	18.50	18.5	1.1~1.50	2.2	
13	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.371	23.30	24.50	19.80	19.80	1.50~2.0	2.9	
14	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.296	24.0	—	20.3	19.6	1.20~1.50	1.95	
15	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.389	23.3	23.0	19.5	19.5	1.5	3.5	
16	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.297	—	—	—	—	—	—	破損
17	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.371	23.3	23.9	1.9	19.5	1.3~1.4	1.9	
18	洪武通宝	中層	褐色土	7.444	22.15	22.1	1.86	18.0	1.2~1.4	2.0	焦げている
19	洪武通宝	中層	褐色土	7.431	23.40	23.4	19.4	19.05	1.5~1.7	2.3	
20	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.367	22.70	22.65	19.3	19.3	1.2~1.3	2.2	
21	洪武通宝	中層	褐色土	7.436	22.0	22.1	23.2	18.5	1.2	2.4	
22	洪武通宝	中層	褐色土	7.441	23.4	23.9	18.8	19.6	1.7~1.8	2.5	1部欠損
23	洪武通宝	中層	褐色土	7.435	22.8	22.9	19.9	19.3	1.3~1.7	2.3	
24	洪武通宝	中層	褐色土	7.437	22.25	22.0	19.2	18.1	1.3~1.6	2.85	
25	洪武通宝	中層	褐色土	7.446	21.9	21.9	18.0	18.0	1.3~1.4	1.7	
26	洪武通宝	中層	褐色土	7.474	—	23.9	19.0	—	1.7~1.8	2.1	1/2穴
27	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.345	23.9	24.6	19.5	19.7	1.5~1.8	2.5	裏面「治」順治水銭
28	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.345	22.9	24.8	19.30	19.3	2.4~2.8	2.8	腐蝕により1部欠
29	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.345	—	—	—	—	—	1.2	腐蝕進行
30	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.371	—	—	—	—	—	0.9	1/31片
31	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.367	23.4	23.6	19.4	19.6	1.5	2.5	
32	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.331	—	22.0	18.5	—	1.0~2.3	1.1	1/2片(下方穴)
33	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.349	22.9	22.4	19.4	19.3	1.4	1.75	破損
34	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.401	22.6	22.4	19.3	19.3	1.5	1.8	1部欠損
35	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.408	—	—	—	—	—	—	
36	洪武通宝	中層	褐色土	7.556	22.9	22.4	18.6	18.6	1.3~1.4	2.1	
37	寛永通宝	中層	褐色土	—	24.4	24.4	20.0	20.0	1.6~1.95	2.8	古寛永
38	洪武通宝	中層	褐色土	7.505	24.1	23.8	19.6	19.7	1.7	2.79	
39	洪武通宝	中層	褐色土	7.431	24.45	24.7	19.3	19.8	2.0~2.4	2.19	
40	洪武通宝	中層	褐色土	7.431	22.2	22.4	18.3	18.0	1.3~1.5	2.2	焼土
41	洪武通宝	中層	褐色土	7.431	21.9	22.1	18.3	18.3	1.2~1.3	20.5	
42	朝鮮通宝	中層	褐色土	7.433	24.5	24.2	20.6	20.7	1.6~1.9	3.1	
43	寛永通宝	中層	褐色土	7.421	24.2	24.2	19.6	19.8	1.2~1.7	2.6	古寛永
44	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.377	23.3	22.8	19.5	19.0	1.6	3.3	
45	寛永通宝	下層	黒褐色土	7.391	24.3	24.3	19.4	19.4	1.9~2.0	3.4	「コ」通「マ」宝
46	洪武通宝	中層	褐色土	7.455	—	22.5	—	18.9	1.5~1.7	1.7	下部1/3穴
47	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.369	22.8	22.7	18.5	18.6	1.6	2.9	
48	寛永通宝	中層	褐色土	7.709	24.3	24.2	18.7	18.9	1.2~1.4	3.2	古寛永
49	寛永通宝	中層	褐色土	7.617	24.0	24.1	19.4	19.0	1.4	2.6	古寛永
50	洪武通宝	中層	褐色土	7.473	23.9	23.9	19.8	18.8	1.8~2.0	2.7	

古銭の計測法は永井久男氏編「中世の出土銭～出土銭の調査と分類～」
兵庫県埋蔵銭調査会 1994年に従う。

番号	銭 名	出土遺構	層 位	レベル (m)	銭径A (mm)	B (mm)	内径C (mm)	D (mm)	銭 厚 (mm)	重量 (g)	備 考
51	元祐通宝	中層	褐色土	7.477	23.5	23.0	19.3	19.4	1.8~1.9	2.1	裏面「叶」
52	寛永通宝	中層	褐色土	7.667	24.5	24.4	2.1	19.8	1.5~1.8	3.8	古寛永
53	寛永通宝	中層	褐色土	7.770	24.7	24.5	19.3	19.3	1.1~1.2	3.3	古寛永
54	寛永通宝	中層	褐色土	7.607	24.2	23.9	18.8	18.8	1.6	3.5	古寛永
55	寛永通宝	中層	褐色土	7.612	24.8	24.2	19.7	19.5	1.2~1.4	2.1	古寛永
56	寛永通宝	中層	褐色土	7.734	24.8	24.7	18.8	18.6	1.3	3.2	古寛永
57	寛永通宝	中層	褐色土	7.630	24.5	24.5	19.9	19.5	1.2~1.3	3.3	古寛永
58	寛永通宝	中層	褐色土	7.519	24.8	24.6	18.8	18.8	1.3~1.5	3.3	古寛永
59	寛永通宝	中層	褐色土	7.622	24.8	24.7	19.9	19.9	1.7~1.9	3.5	古寛永
60	寛永通宝	中層	褐色土	7.521	24.9	24.5	19.7	18.2	1.0~1.5	2.3	古寛永
61	寛永通宝	中層	褐色土	7.412	24.5	24.8	19.8	18.2	1.9~2.9	3.8	古寛永焦げている
62	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.277	23.4	24.5	18.8	19.8	1.3~1.5	2.6	
63	洪武通宝	中層	褐色土	7.419	24.0	—	—	20.9	1.5~2.1	2.6	上部1/3穴
64	洪武通宝	中層	褐色土	7.632	23.4	23.6	18.9	18.9	1.5~1.7	3.4	
65	洪武通宝	中層	褐色土	7.397	23.0	23.2	—	19.3	1.6	2.0	「洪」の部分欠損
66	洪武通宝	中層	褐色土	7.399	22.8	22.8	18.7	18.8	1.4~1.5	2.2	
67	洪武通宝	中層	褐色土	7.379	—	—	—	—	—	0.7	1/4片
68	洪武通宝	中層	褐色土	7.507	23.3	23.3	20.6	20.3	1.2~1.6	2.2	裏面「福」字
69	洪武通宝	中層	褐色土	7.490	24.0	23.9	20.3	20.4	1.2~1.3	2.45	裏面文字有(?)
70	洪武通宝	中層	褐色土	7.459	22.4	22.2	19.0	18.5	1.5~1.6	2.0	
71	洪武通宝	中層	褐色土	7.390	—	—	—	—	—	1.7	1/2片、◎と縦合
72	寛永通宝	中層	褐色土	7.572	—	—	24.8	19.4	1.5	2.4	古寛永
73	洪武通宝	中層	褐色土	7.427	22.8	23.0	19.5	19.5	1.6~1.8	2.6	網製研盤付者(別記か?)
74	洪武通宝	中層	褐色土	7.439	—	—	—	—	—	1/2片	
75	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.329	23.2	22.9	19.5	19.5	1.6~1.7	2.55	
76	寛永通宝	下層	黒褐色土	7.373	24.6	24.5	20.5	19.8	1.6~2.0	3.6	
77	洪武通宝	中層	褐色土	7.429	24.0	23.3	20.0	19.3	1.7~1.8	1.9	下方1部欠損
78	洪武通宝	中層	褐色土	7.462	—	—	—	—	—	0.8	1/2片
79	元祐通宝	中層	褐色土	7.462	23.6	23.5	19.8	19.8	1.4~1.5	2.4	
80	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.375	22.6	—	18.2	—	1.3~2.0	0.8	1/3穴、サビ進行
81	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.399	21.6	21.1	18.8	18.3	1.2~1.3	2.0	外周一部欠損
82	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.341	—	—	—	—	—	1.5	1/3穴、サビ進行
83	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.362	—	—	—	—	—	1.1	1/2穴
84	洪武通宝	中層	褐色土	7.421	—	—	—	—	—	0.7	1/4片(「洪」の部分のみ)
85	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.349	—	—	—	—	—	0.85	1/3片(洪)
86	寛永通宝	下層	黒褐色土	7.361	25.2	25.0	19.5	20.0	19.9~20.0	3.4	古寛永
87	洪武通宝	中層	褐色土	7.501	22.5	—	19.5	—	1.2~1.5	1.65	
88	寛永通宝	中層	褐色土	7.526	24.8	25.0	19.9	19.9	1.6~1.7	3.4	古寛永
89	洪武通宝	中層	褐色土	7.451	—	—	—	—	—	1.2	1/2片(上部穴)
90	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.377	—	—	—	—	—	0.7	1/2片、サビ進行
91	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.241	22.5	22.8	18.2	18.1	1.6	2.15	サビ進行
92	寛永通宝	中層	褐色土	7.497	2.5	24.6	19.8	19.4	1.5~1.6	3.3	
93	洪武通宝	下層	黒褐色土	7.215	—	23.6	—	18.9	1.4~1.6	1.95	下方1/4穴
94	朝鮮通宝(?)	中層	褐色土	24.6	—	—	19.3	—	4.2~9.3	5.2	火災で二枚溶着
95	洪武通宝	中層	褐色土	23.6	23.8	23.8	18.5	18.7	1.6~2.2	3.1	
96	洪武通宝	中層	褐色土	23.2	22.8	22.8	17.7	18.3	2.9	4.4	一枚重ね
97	寛永通宝	中層	褐色土	24.6	24.6	24.6	19.7	19.7	1.7~1.8	3.4	古寛永
98											
99	欠番										
100											

第5表 魚屋町遺跡出土銭貨一覧表②

番号	銭名	出土遺構	層位	レベル (m)	銭径A (mm)	B (mm)	内径C (mm)	D (mm)	銭厚 (mm)	重量 (g)	備考
101	寛永通宝	SP6 (上層)			24.10	24.30	20.15	20.00	1.1~1.05	1.9	裏面鋳型傷、古寛永
102	寛永通宝	SP6 (上層)			25.30	25.10	20.1	20.2	1.4~1.7	3.6	古寛永
103	洪武通宝	SP6 (上層)			22.30	22.30	19.80	18.75	1.6~2.05	2.9	
104	寛永通宝	SP10 (上層)			24.35	23.10	18.80	18.80	1.2~1.4	2.7	新寛永
105	寛永通宝	SP21 (上層)			23.60	23.65	19.20	19.40	1.1~1.4	3.3	古寛永
106	寛永通宝	SP22 (上層)			24.20	—	2.20	2.10	1.2~1.25	2.7	古寛永
107	寛永通宝	SP23 (上層)			24.10	23.30	18.90	18.30	1.3~1.2	2.5	新寛永
108	寛永通宝	SP23 (上層)			—	測れず	—	—	—	2.4	土付着
109	不明(寛永か)	SP24 (上層)			—	測れず	—	—	—	3.7	焼けている
110	寛永通宝	SP39 (上層)			21.45	21.75	21.80	18.60	1.2~1.25	2.0	新寛永
111	寛永通宝	SP39 (上層)			24.30	24.50	20.80	19.90	1.4~1.4	2.65	古寛永
112	寛永通宝	SP39 (上層)			25.80	24.45	19.70	19.40	1.25~1.3	2.85	
113	元豊通宝	下層	黒褐色土		24.30	24.40	18.85	18.85	1.25~1.3	2.9	
114	寛永通宝	下層	黒褐色土		25.40	25.20	20.40	20.25	1.1~1.2	3.35	古寛永
115	洪武通宝	下層	黒褐色土		22.10	21.70	18.10	18.60	1.05~1.1	1.9	
116	寛永通宝	下層	黒褐色土		24.80	24.70	19.50	19.40	1.1~1.2	3.4	古寛永
117	寛永通宝	下層	黒褐色土		24.30	24.20	18.30	19.65	1.35~1.4	4.1	古寛永
118	寛永通宝	下層	黒褐色土		24.30	24.60	19.80	19.70	1.1~1.45	2.9	古寛永
119	寛永通宝	下層	黒褐色土		24.40	24.70	20.40	20.80	1.55~1.65	5.35	古寛永
120	寛永通宝	下層	黒褐色土		23.55	23.60	19.60	19.30	1.4~1.5	3.4	古寛永
121	寛永通宝	下層	黒褐色土		24.00	23.85	19.10	19.20	1.2~1.25	2.6	古寛永
122	洪武通宝	下層	黒褐色土		22.90	22.70	19.50	19.00	1.4~1.5	2.7	
123	洪武通宝	下層	黒褐色土		22.80	22.80	18.85	18.85	1.40~1.55	2.7	一部欠損
124	寛永通宝	下層	黒褐色土		23.70	24.80	19.60	19.80	1.2	2.7	古寛永
125	寛永通宝	下層	黒褐色土		25.00	25.10	21.30	19.80	1.2~1.3	3.7	古寛永
126	寛永通宝	下層	黒褐色土		23.90	14.85	18.35	18.30	1.05~1.1	2.45	古寛永
127	寛永通宝	下層	黒褐色土		24.85	24.10	19.40	19.55	0.8~0.9	1.8	古寛永
128	寛永通宝	下層	黒褐色土		—	—	測れず	—	1.0~1.2	1.4	1/2片
129	洪武通宝	下層	黒褐色土		—	—	測れず	—	1.1~1.2	1.4	3/4片
130	雁首銭	下層	黒褐色土		23.40	23.80	—	—	1.1~1.2	2.3	煙管雁首製品
131	洪武通宝	下層	黒褐色土		21.06	20.05	17.90	17.65	1.25~1.4	1.95	
132	洪武通宝	下層	黒褐色土		23.60	23.60	20.20	19.80	1.3~1.4	2.7	
133	洪武通宝	下層	黒褐色土		23.65	23.50	19.25	19.20	1.3~1.35	1.6	1ヶ所穿孔有
134	洪武通宝	下層	黒褐色土		—	24.70	—	18.10	1.4~1.6	2.7	
135	洪武通宝	下層	黒褐色土		23.30	23.45	20.00	19.20	1.2~1.35	2.7	
136	不明	下層	黒褐色土		24.10	23.65	20.70	19.80	0.95~1.0	1.7	表面溶着
137	不明	下層	黒褐色土		23.50	—	—	—	—	1.6	表面溶着
138	元祐通宝	下層	黒褐色土		24.35	24.40	19.80	20.65	1.1~1.45	2.75	1086年
139	洪武通宝	下層	黒褐色土		—	—	—	—	—	—	1/4片
140	不明	下層	黒褐色土		—	—	—	—	—	—	1/2片
141	不明	下層	黒褐色土		—	—	—	—	—	—	1/4片
142	不明	下層	黒褐色土		—	—	—	—	—	—	1/4片
143	不明	下層	黒褐色土		—	—	—	—	—	—	1/2片
144	元祐通宝	下層	黒褐色土		23.65	23.35	21.05	19.80	1.05~1.05	2.75	1086年
145	寛永通宝	北東部堀丸			23.70	24.80	19.80	19.80	1.2~1.25	2.75	
146	寛永通宝	北東部堀丸			24.90	24.10	20.50	19.60	2.4~1.15	3.50	
147	寛永通宝	北東部堀丸			24.30	24.20	20.80	20.00	1.4~1.5	3.3	
148	寛永通宝	北東部堀丸			23.80	23.80	19.20	19.10	1.0~1.05	2.25	
149	洪武通宝	北トレンチ下層	黒褐色土		22.15	22.15	19.10	18.90	1.3~1.5	2.2	
150	寛永通宝	北トレンチ下層	黒褐色土		24.80	24.60	19.30	19.55	1.35~1.45	3.6	

V. 第 2 次 調 査

1. 遺構の概要

第2次調査では、魚屋町筋の西側における屋敷割り状態を確認することに主眼を置いた。まず、調査区の北側に土層確認トレンチを設けて、土層状態を把握した。標準となる土層に基づいて、調査区を上・中・下の3層に分割して順次発掘作業に移った。上・中・下層の平均標高は、約8.1・7.6・7.1mを測



第31図 上層検出遺構全景（南から）

り約50cmの間隔で掘り下げた結果となった。

【上層】

上層で検出した遺構は、建物2棟、井戸3基、溝4条、土坑5基とピットである。

建物は調査区の北西部と南東部で検出した。建物の全容は検出できなかったが、2棟とも東西棟である。

S B 23は柱の基礎に30～40cmの方形の石を有する。残存する基礎石による建物の規模は、東西5.5m×南北5mである。基礎の間隔は1間＝約2mとしているようだ。建物は魚屋町筋に面していたと考えられるため、建物を復元すると、東西12間×南北2.5間程になろう。

S B 30も基礎石とその抜き跡が検出された。東西4m×南北3m分である。北側の柱筋が建物の外壁となる部分で、規模を推定することは不可能である。(第34図)

井戸は3基とも調査区の北側で検出した。

S E 1は内径74cmで、周囲に漆喰を幅10cmの厚さで塗り固めている。漆喰の外周は瓦を積み重ねる。漆喰は井戸からS K 4に連続して塗られており、S K 4とは一連の遺構と考えられる。(第36図)

S E 2も漆喰で塗られた井戸で、内径76cm、漆喰厚5.5cmを測る。漆喰の外周は5cm大の円礫を混入させている。(第37図)

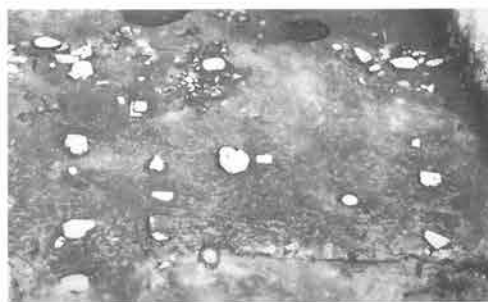
S E 3は上部のみを漆喰を用い、井戸本体は瓦・板状の割り石を小口積みする。内径は67cm前後である。検出面から約2.8mの深さで、桶状に組んだ木枠が出土した。湧水が著しく、木枠の径および枠をなす板材の枚数など計測できなかった。ただし、抜き取った板材は幅10～12cm、長さ88～92cm、厚さ1.8～2.3cmである。(第37図)



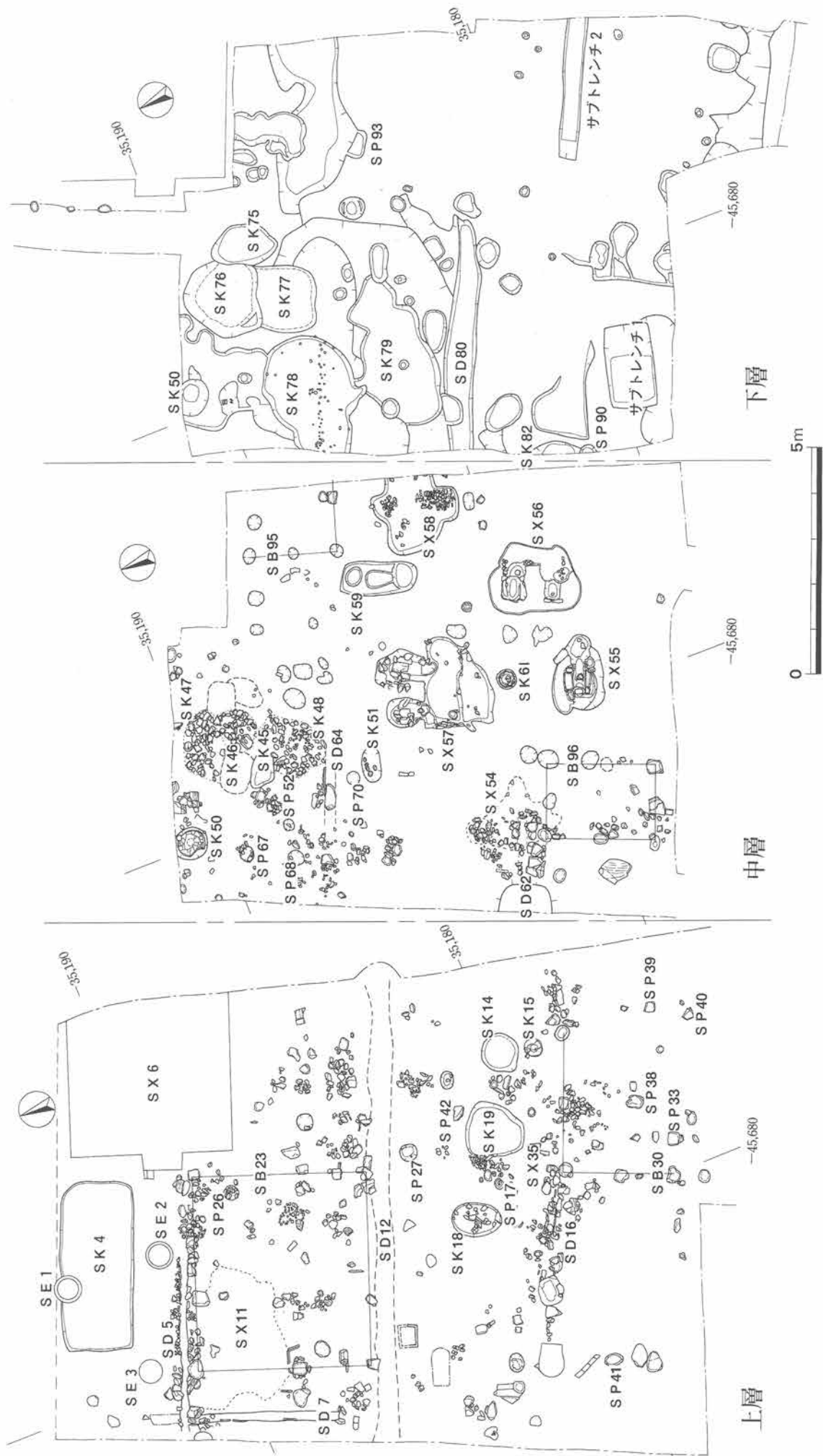
第32図 中層検出遺構全景（南から）



第33図 下層検出遺構全景（南から）



第34図 S B 30（南から）



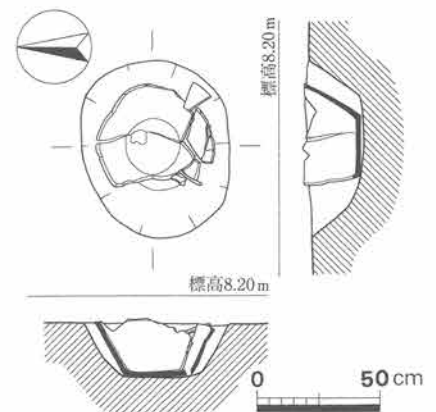
第35図 上・中・下層：遺構配置図 (1/150)



第36図 SE1・SK4 (西から)



第37図 SE2・3SD5(西から)



第38図 SK15実測図 (1/30)

溝は4条検出したが、内3条が東西走向である。

SD5は東西溝で、幅15~25cm、検出長5.5mを測る。溝の北壁は瓦を立てて裏込めには10~15cm大の円礫を用いる。南壁は板状の礫の小口を当てている。溝底面は漆喰を丁寧に塗り、東から西へ流水の方向を定めている。

SD7は南北溝で、溝底面の漆喰と西壁面に使用の直立した平瓦の検出に留まった。流水方向は北から南である。

SD12の直上には後世の基礎が入り、調査区の中央付近で溝の跡を辛うじて認めた。規模や状態等は不明である。

SD16は調査区に南側で検出した。溝幅は約20cmで、検出長は4.5m程である。壁面状態はSD5と逆で、南壁面に瓦を立て、北壁面は礫を用いている。後世の基礎が直上に乗り、残存状態は良くない。(第39図)



第39図 SD12・16 (南上空から)

土坑SK13・18は廃棄土坑である。共に陶磁器、瓦、礫、砂、焼土が混在する。また、SK14は円形を呈し、周囲を漆喰で塗り固めている。深さは20cmで浅く、底面の漆喰は割られている。

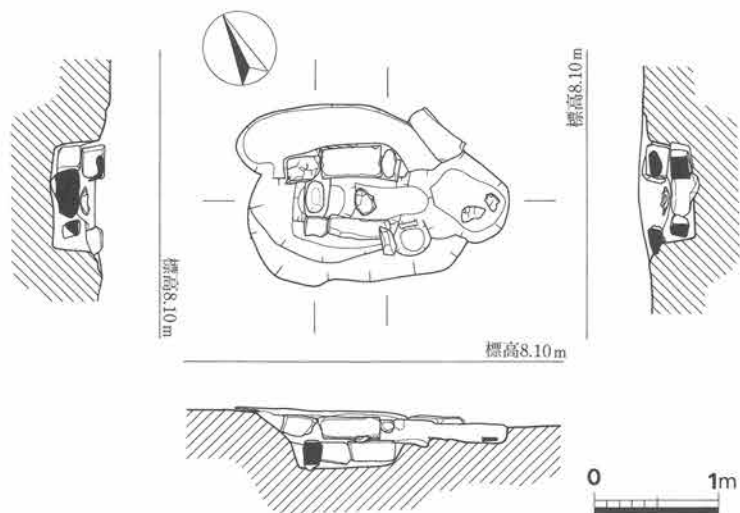


第40図 SX6 (東から)

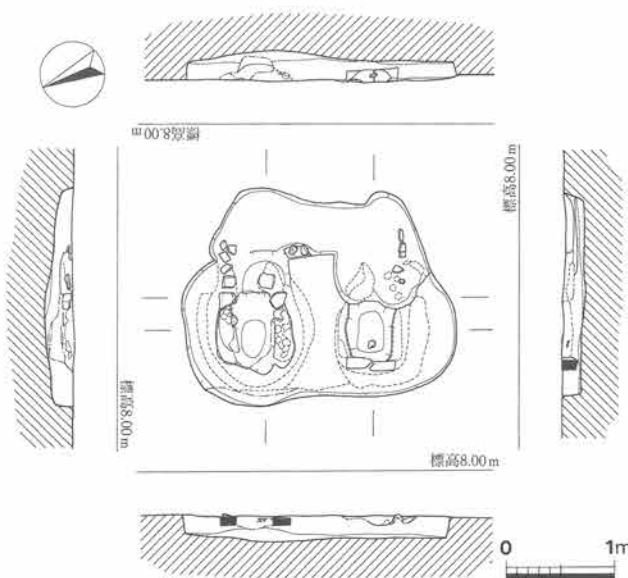
SK15はSK14の南隣で検出し、陶器の甕が正立状態で出土した。(第38図)



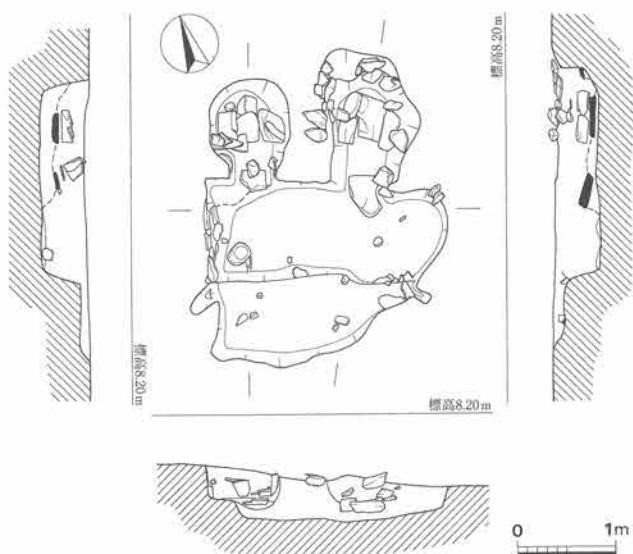
第41図 SX55 (東から)



第42図 SX55実測図 (1/60)



第43図 SX56実測図 (1/60)



第45図 SX57実測図 (1/60)



第46図 SX57 (南から)

燃燒部は割り石が落ち込み、A・B共に石組みであったと思われる。Aの主軸はN-19° 30' -Eで、BはN-27° 30' -Eである。(第45・46図)

溝は調査区の西側で検出した。SD62は両側の壁面に割り石の小口を用いる。溝幅20cm、検出長2m



第44図 SX56 (東から)

SX6は大正～昭和初期の料亭『丸嘉』の半地下倉庫である。(第40図)

SX11は不整形に広がる焼けた砂の範囲でSB23・SD5よりも古い。砂は紫褐色を呈し、砂面の厚さは3～5cmと薄い。

【中層】

中層で検出した主な遺構は、建物2棟、竈3基、溝2条、土坑7基である。

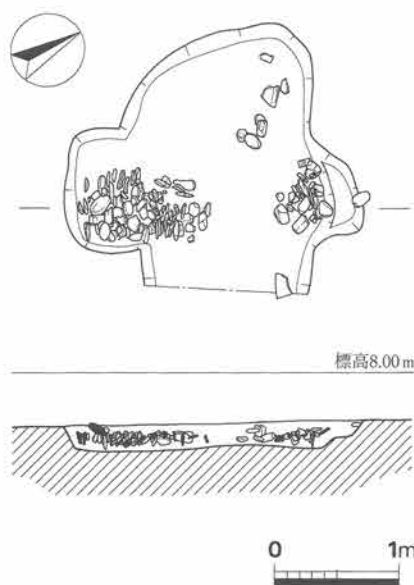
建物はSB95を北東隅で、SB96を南西隅で検出した。前者は東西柱筋1.5m分、南北柱筋2.5m分、後者は東西柱筋2m分、南北柱筋3m分で、共に全容の検出には至らなかった。板状の基礎石を使用。

竈は、調査区中央で3基検出した。その内2基が2連式竈の形態をなす。使用目的は不明である。

SX55は東に焚き口、西に燃燒部を有する。燃燒部には幅25cm、長さ45cmの直方体の阿蘇凝灰岩を両側に配し、窯の壁面を構成する。底面には灰が5～10cmの厚さで堆積する。主軸はN-65° -Wを示す。(第41・42図)

SX56はA・Bの竈が南北に並び、焚き口を東に置く。燃燒部は共に長方形を呈する。Bは焚き口の両側に安山岩を1個ずつ添える。BがAよりも若干大きめの構造を有する。N-67° 30' -Wに主軸を示す。(第43・44図)

SX57は燃燒部よりも一段低い床面の焚き口を南に持ち、西壁は割り石を立て強固にするが、東壁は素掘りのままである。



第47図 SX58実測図 (1/60)

は一部欠けているが、長さは約2mに及ぶ。(第47・48図)

【下層】

土坑・溝などを検出した。多くは直上層の遺構の掘り込みである。

S K 78は不整形であるが、黒褐色の粘質土の埋土を有する。底面は平坦で、18cmの深さで黒色の粘土層(泥炭層)に至る。土坑内から木杭が56本出土し、長さ3.3m、幅0.6mの帯状に48本の杭が東西方向に密集する。坑内から絵唐津が出土。(第49図)

2. 遺物の概要

出土遺物は、パンコンテナで約70箱に及ぶ。遺物については後頁の図版と遺物観察表を以て説明に代えたい。

3. まとめ

当初の目的であった屋敷割りの区画溝を検出できたことが大きな成果と言えよう。城下町遺跡における従来の調査において、

今回ほど明瞭に確認できた例はない。以下、層毎に屋敷割りについて、若干考察を加えたい。

上層(江戸後期～幕末)……S D 5—S D 12—S D 16の間隔は5m・4.4mで、2間半と2間の間口で奥行きは13間(26m)の敷地が町人の屋敷地と考えられる。

中層(江戸中期)……S D 62—S D 64の間隔は5mで、2間半の間口である。

下層(江戸初頭)……木杭列が境界を表すものか不明である。城下町建設(1621)以前の杭の可能性もある。

上層境界と中層境界を比較すると、S D 16とS D 62は同一箇所であり、長く踏襲された溝と言えよう。しかし、S D 64は踏襲されず、間口が狭まりS D 12に移行している。江戸期は頻繁に境界の移動が行われていたのか、火災の復興の際に境界移動が行われたのか、その原因は判然としない。今後の調査例を俟って検討したい。魚店が立ち並ぶ江戸時代の状況を復元することに、一筋の光が差し込んだようだ。



第48図 SX58(東から)

の性格が強い。

S X 58は円礫・割り石を立てて東西方向に並べたもので、性格は不明である。土坑は十字形を呈するが、集石は南北に配され、土坑の重複も考えられる。集石

である。S D 64は割り石を溝の壁面と底石に使用している。幅27cm 検出長2.2m、深さ8cmを測る。

土坑は7基とも廃棄坑



第49図 SX78(東から)

銭貨名	上層出土枚数	中層出土枚数	下層出土枚数	備考
寛永通寶(古)	23	39	11	1636年初鋳
寛永通寶(新)	50	3	1	1697年初鋳
文久永寶	1			1863年初鋳
熙寧元寶	2	1	2	北宋銭 1068年初鋳
元豐通寶	1		1	北宋銭 1078年初鋳
元符通寶	1	1	1	北宋銭 1098年初鋳
元祐通寶		1		北宋銭 1098年初鋳
洪武通寶	5	53	16	明銭 1368年初鋳
永樂通寶			1	明銭 1408年初鋳
鉄銭	1			
不明	7	2		

第7表 層別における銭貨出土一覧表



(1) S X 6 出土遺物

(2) S X 11 出土遺物

(3) S K 13 出土遺物



(4) S K 4・18・19 出土遺物

(5) S D 5・7・12 出土遺物

(6) S P 17・27・33・42 出土遺物



(7) S K 50 出土遺物

(8) S K 55・56・57 出土遺物

(9) S X 58、S D 62、S K 63 出土遺物



(10) S K 77, S D 80 出土遺物

(11) S K 78 出土遺物

(12) S K 82 出土遺物



(13) 上層包含層出土遺物①

(14) 上層包含層出土遺物②

(15) 上層包含層出土遺物③

第50図 出土遺物①



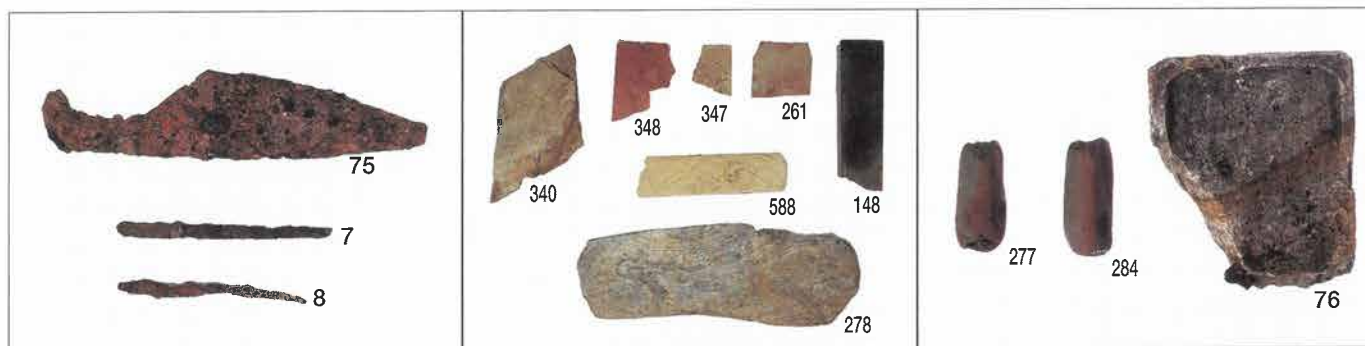
第51図 出土遺物②



(1) 分銅 (表)

(2) 分銅 (裏)

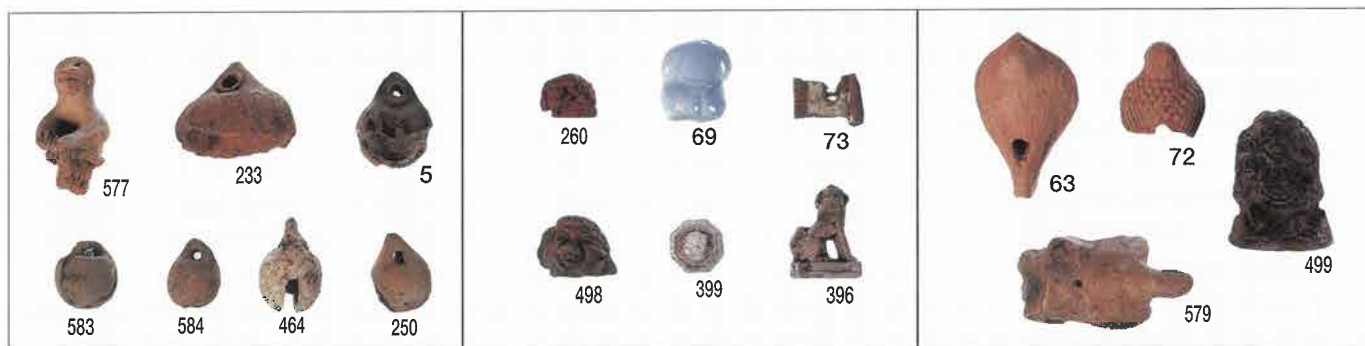
(3) 銅製品



(4) 鉄製品

(5) 砥石

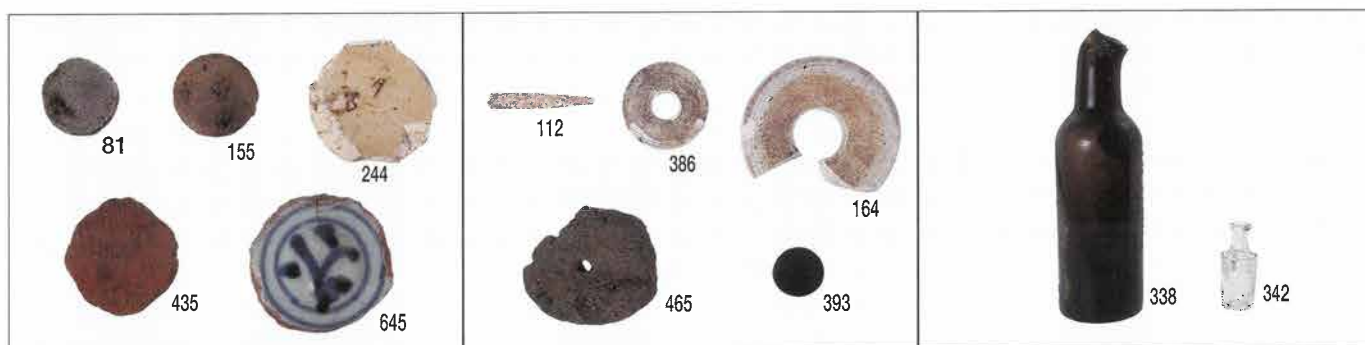
(6) 土錘・硯



(7) 土鈴

(8) 型物人形①

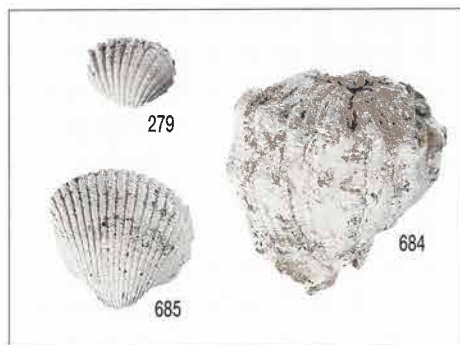
(9) 型物人形②・鳩笛



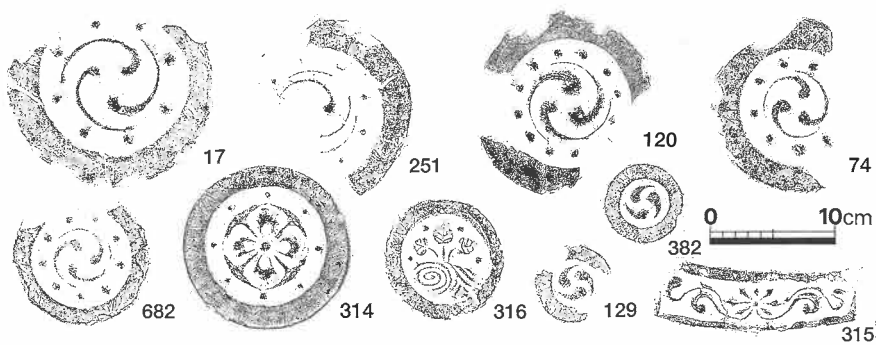
(10) 面子

(11) 簪・滑車・軽石・基石

(12) ガラス瓶



(13) 貝殻



第53図 出土瓦拓影

第52図 出土遺物③

第7表 魚屋町2次遺物一覧表①

※() : 現存値 No.1

図版・遺物番号	出土遺構	器	種	法 量		装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	通 物 登録番号
				口径	底径	器高	器口径					
1	SK4	磁器 蓋	蓋	9.5	—	(2.7)	染付	花卉文				00001
5024(4) 2	SK4	磁器 散華華	散華華	—	—	—	染付	流水に花文				00002
5024(4) 3	SK4	陶器 灯火具	灯火具	5.2	4.1	2.4	鉄軸			18C		00003
4	SK4	陶器 土瓶蓋	土瓶蓋	9.4	—	1.8	黒釉					00004
5024(7) 5	SK4	土師器 土鈴	土鈴	縦4.5	横3.5	厚3.2						00005
6	SK4	土師器 土鈴玉	土鈴玉	—	—	—						00006
5224(4) 7	SK4	鉄釘	鉄釘	長121	幅0.8	厚0.6						00007
5224(4) 8	SK4	鉄釘	鉄釘	長10.5	幅0.9	厚0.7						00008
13	SK4	奈良	奈良	縦4.7	横1.8	(13.8)						00013
14	SK4	骨?	骨?	縦8.5	横0.8	厚0.5						00014
17	東包含層	軒瓦	軒瓦	長3.1	幅0.7	厚—	三ツ巴文 珠文8個					00017
5024(6) 18	SD5	磁器 小鉢	小鉢	—	5.8	6.4	色絵	花蝶文		19C		00018
5024(1) 19	SD6	陶器 蓋	蓋	6.6	3.1	2.7	灰釉	線刻の圓縁				00019
5024(1) 20	SD6	陶器 蓋	蓋	6.7	3.2	2.7	灰釉	線刻の圓縁				00020
5024(1) 21	SD6	陶器 蓋	蓋	6.1	3.0	3.1	長石釉	華文の鉄絵				00021
5024(1) 22	SD6	陶器 蓋	蓋	6.4	3.2	3.2	長石釉	華文の鉄絵				00022
5024(1) 23	SD6	陶器 小皿	小皿	11.3	4.8	2.0	長石釉	華文の鉄絵				00023
5024(1) 24	SD6	陶器 小皿	小皿	10.4	4.4	1.6	灰釉					00024
5024(1) 25	SD6	陶器 水差し	水差し	9.3	9.5	7.0	長石釉	草文の鉄絵				00025
5024(1) 26	SD6	陶器 水差し	水差し	9.3	9.6	7.0	長石釉	草文の鉄絵				00026
5024(1) 27	SD6	陶器 灰皿	灰皿	10.4	4.9	3.8	灰釉	口縁に緑釉掛				00027
5024(1) 28	SD6	陶器 灰皿	灰皿	10.5	5.1	3.6	灰釉	口縁に緑釉掛				00028
5024(1) 29	SD6	陶器 灰皿	灰皿	10.6	4.6	3.8	灰釉	口縁に緑釉掛				00029
5024(1) 30	SD6	陶器 灰皿	灰皿	10.4	5.0	3.6	灰釉	口縁に緑釉掛				00030
5024(1) 31	SD7	磁器 灰皿	灰皿	12.1	5.0	6.2	染付	丸文				00031
5024(1) 32	SD7	磁器 灰皿	灰皿	12.1	5.0	6.2	染付	丸文				00032
5024(1) 33	SD7	磁器 灰皿	灰皿	8.9	4.0	3.0	染付	日の出と宝文				00033
45	SD7	磁器 灰皿	灰皿	8.9	4.0	3.0	染付	日の出と宝文				00034
5024(2) 34	上面SX11	磁器 灰皿	灰皿	10.2	—	(5.7)	染付	窓松文				00035
51	上面SX11	磁器 灰皿	灰皿	9.6	—	(4.7)	染付	樹木文				00036
52	上面SX11	磁器 灰皿	灰皿	11.6	—	(4.9)	染付	草文				00037
5024(2) 35	上面SX11	磁器 湯飲	湯飲	6.8	3.1	3.1	染付	馬に草花文				00038
54	上面SX11	磁器 湯飲	湯飲	7.4	3.6	5.6	染付	漸弁繋ぎ				00039
5024(2) 36	上面SX11	磁器 蓋	蓋	6.8	2.5	2.4	染付	華文				00040
5024(2) 37	上面SX11	磁器 蓋	蓋	7.0	2.6	1.6	染付	華文				00041
5024(2) 38	上面SX11	磁器 大皿	大皿	—	8.0	2.0	染付	山水文				00042
5024(2) 39	上面SX11	磁器 小鉢	小鉢	14.6	8.7	4.6	染付	波に鶴				00043
5024(2) 40	上面SX11	磁器 小鉢	小鉢	15.4	7.8	6.2	染付	窓松山水文に花唐草				00044
60	上面SX11	磁器 蓋	蓋	6.1	—	1.7	染付	圓縁文				00045
61	上面SX11	磁器 変形皿	変形皿	15.7	7.9	3.5	青磁	鮫形				00046
5024(2) 41	上面SX11	陶器 小皿	小皿	8.7	3.6	2.3	鉄軸白泥	板花・磁手				00047
5224(3) 42	上面SX11	銅 柄	柄	縦7.8	横5.1	厚3.7						00048
64	上面SX11	滑石 石筆	石筆	縦4.1	幅0.7	厚0.2						00049
5024(2) 43	SK11	磁器 碗	碗	10.8	4.7	5.4	染付	草花文				00050
5024(2) 44	SK11	磁器 碗	碗	8.1	3.2	2.6	染付	螺に源氏香文				00051
5024(2) 45	SK11	磁器 蓋	蓋	6.0	—	1.1	染付	山水文				00052
5224(6) 46	SK11	磁器 人形	人形	縦(3.2)	横(2.7)	厚(1.1)	白磁	人物				00053
5024(2) 47	SK11	磁器 小鉢	小鉢	—	—	6.0	色絵	花蝶文				00054
5024(2) 48	SK11	陶器 灯火具	灯火具	4.8	4.7	2.4	鉄軸					00055
5224(6) 49	SK11	土師器	土師器	はと苗	縦(4.6)	横(1.5)						00056

第8表 魚屋町2次遺物一覧表②

※() : 現存値 No.1

図版・遺物番号	出土遺構	器	種	法 量		装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	通 物 登録番号
				口径	底径 器高	文 様	その他					
136 518(20)(27) 137	SK47	磁器 釜	釜	6.0	3.2 4.9	白磁釉	鋸状にピラ掛け					00136
137 518(20)(27) 137	SK47	磁器 中皿	中皿	—	7.0 (3.4)	染付	見込 草文		肥 前	18C前	足を欠損	00217
138	SK47	磁器 香炉	香炉	7.2	4.5 6.0	青磁釉			肥 前	18C前		00219
139	SK47	陶器 火入れ	火入れ	10.4	6.9 (5.4)	青磁釉			肥 前	18C		00220
518(14) 140	SK48	磁器 皿	皿	—	—	染付	花唐草文					00221
142	SK48	磁器 皿	皿	14.0	—	染付	花唐草文		肥 前	18C		00222
143	SK48	磁器 飯碗	飯碗	11.0	4.9 7.2	染付	花唐草文		肥 前	18C		00223
144	SK48	磁器 中皿	中皿	—	4.6 (4.0)	長石釉	山水文		肥 前	18C初～中		00224
145 508(7) 146	SK48	磁器 中皿	中皿	—	4.9 (2.2)	長石釉			肥 前	18C初～中		00225
508(7) 147	SK50	磁器 段重蓋	段重蓋	15.0	4.4 3.7	染付	紗綾形に花文		肥 前	18C前	高台欠損	00226
508(7) 147	SK50	磁器 飯碗	飯碗	6.6	4.0 6.4	染付	縹絡文		肥 前	18C前	大形、下平欠損	00227
528(5) 148	SK50	磁器 底石	底石	縦12.1 横3.5 厚2.1	—	—			肥 前	18C前	見込56の附具、縁	00228
508(7) 149	SK50	磁器 碗	碗	11.6	4.9 6.3	染付	草花文		肥 前	18C後～19C	体部一部欠損	00229
508(7) 150	SK50	磁器 碗	碗	11.2	4.4 4.6	白磁			肥 前	18C		00230
508(7) 151	SK50	磁器 中皿	中皿	14.8	9.7 2.7	染付	山水文		肥 前	18C		00231
508(7) 152	SK50	磁器 釜	釜	5.6	1.3 3.0	色絵	海老文		肥 前	18C		00232
508(7) 153	SK50	陶器 碗	碗	11.0	5.1 7.5	灰釉	体部上半		肥 前	18C		00233
508(7) 154	SK50	陶器 壺	壺	10.6	7.9 12.0	鉄釉			肥 前	18C		00234
528(10) 155	SK50	土師器 面子	面子	縦12.1 横3.3 厚3.3	—	—			肥 前	18C		00235
518(20)(27) 156	SK51	磁器 火入れ	火入れ	—	7.6 (3.4)	染付	草花文		肥 前	18C		00236
157	SK51	磁器 段重蓋	段重蓋	12.8	—	(3.3) 染付	花唐草文		肥 前	18C		00237
158	SK51	磁器 小碗	小碗	—	—	色絵	草花文		肥 前	18C		00238
518(20)(27) 159	SK51	磁器 中皿	中皿	11.0	5.6 4.0	染付	鉄紋文		肥 前	18C		00239
160	SK51	磁器 中皿	中皿	13.6	7.7 3.0	染付	流水文様の墨弾き	見込 五弁花	肥 前	18C		00240
161	SK53	磁器 筒形鉢	筒形鉢	7.5	—	6.1 染付			肥 前	18C		00241
162	SK54	磁器 碗	碗	11.5	4.8 6.0	染付	波に亀	見込 亀	肥 前	18C		00242
163	SK54	磁器 紅皿	紅皿	6.1	2.6 1.9	白磁	蛸唐草型押し		肥 前	18C		00243
528(11) 164	SK54	磁器 滑車	滑車	縦12.1 横10.1 厚1.5	—	—			肥 前	18C		00244
165	SK54	磁器 土瓶	土瓶	—	7.6 (12.2)	灰釉			肥 前	18C		00245
508(8) 166	SK55	陶器 片口鉢	片口鉢	23.0	10.0 11.5	鉄釉			肥 前	18C		00246
508(8) 167	SK55	土師器 土鍋	土鍋	—	—	5.0			肥 前	18C		00247
508(8) 168	SK55	陶器 灯明皿	灯明皿	9.0	3.6 2.6	鉄釉			肥 前	18C		00248
508(8) 169	SK55	土師器 灯明皿	灯明皿	8.5	4.2 1.8				肥 前	18C		00249
508(8) 170	SK55	陶器 碗	碗	—	4.2 6.5	胎釉	素手		肥 前	18C		00250
528(11) 171	SK56	銅 分銅	分銅	縦12.1 横1.4 厚1.4	—	—			肥 前	18C		00251
508(8) 181	SK57	磁器 中皿	中皿	13.9	5.7 3.4	染付	牡丹文		肥 前	18C		00252
518(20)(27) 200	SK57	磁器 中皿	中皿	14.2	7.7 3.8	染付	松に鉄鉄		肥 前	18C		00253
201	SK57	磁器 中皿	中皿	13.9	5.8 3.6	染付	雲線文		肥 前	18C		00254
508(8) 202	SK57	陶器 湯鉢	湯鉢	7.0	3.6 3.5	灰釉			肥 前	18C		00255
508(8) 203	SK57	陶器 中皿	中皿	—	4.9 (3.6)	灰釉	刷毛目		肥 前	18C		00256
508(8) 204	SK57	陶器 桶鉢	桶鉢	27.0	—	6.3	灰釉		肥 前	18C		00257
528(11) 205	SK57	銅 分銅	分銅	縦1.9 横1.2 厚1.0	—	—			肥 前	18C		00258
508(8) 206	SK57	磁器 碗	碗	10.2	—	(6.6) 染付	蓮文		肥 前	18C		00259
508(8) 207	SK57	陶器 大皿	大皿	—	8.1 (6.9)	鉄絵			肥 前	18C		00260
508(8) 208	SK57	陶器 皿	皿	12.6	3.6 4.3	灰釉	山水文	見込 蝶	肥 前	18C		00261
687 518(14) 211	SK58	磁器 中皿	中皿	—	13.6 (2.7)	染付			肥 前	18C		00262
508(8) 212	SK58	土師器 灯明皿	灯明皿	6.9	4.0 1.8				肥 前	18C		00263
508(8) 213	SK58	陶器 皿	皿	11.2	4.7 3.9	灰釉			肥 前	18C		00264
508(8) 216	SK58	陶器 皿	皿	—	5.0 (4.0)	灰釉			肥 前	18C		00265

第9表 魚屋町2次遺物一覧表③

※() : 現存値 No.1

図版・遺物番号	出土遺構	器	法 量	装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	通 考 資料番号
				口徑 底径 器高 器口幅	文 様					
5004(11)29 294	SK82	磁器 中皿	— 6.8 染付	草文か	草文か	朝	朝 妻	18C前	陶胎	00294
5004(12)295	SK82	磁器 中皿	13.1 8.4 3.2 染付	松竹梅文	松竹梅文	肥 前	肥 前	18C	墓台内点のハリ玉	00295
296	SK82	磁器 中皿	13.2 — 2.6 染付	雪の輪文	雪の輪文	肥 前	肥 前	18C		00296
5004(12)297	SK82	磁器 薬物鉢	10.6 7.0 6.3 染付	窓に草花、水梨文	窓に草花、水梨文	肥 前	肥 前	18C後～19C		00297
5004(12)298	SK82	磁器 紅皿	4.6 3.4 1.7 白磁						型押成型	00298
5004(12)298	SK82	磁器 片口	25.0 10.5 12.4 鉄軸白磁	駒毛目	駒毛目					00299
5004(12)300	SP93	土師器 灯明皿	5.9 3.4 1.3						油煙付着	00300
5004(14)304	包含層 包含層	磁器 碗	15.0 5.9 5.9 染付	山水文	山水文	肥 前	肥 前	18Cか		00304
305	包含層	磁器 碗	— 4.5 (3.0) 染付				朝 妻	18C前	陶胎	00305
306	包含層	磁器 中皿	— 10.1 4.3 染付	半菊文	半菊文		肥 前	18C中～末	見込 瓦目縁	00306
5004(14)307	包含層	磁器 中皿	13.0 7.6 3.0 染付	宝文	宝文	肥 前	肥 前	18C中～末	見込 瓦目縁	00307
5004(14)308	包含層	磁器 中皿	7.0 7.8 3.0 染付	花唐草文	花唐草文	肥 前	肥 前	18C中～末	見込 瓦目縁	00308
5004(14)309	包含層	磁器 中皿	13.0 8.0 4.2 染付	唐草文	唐草文	肥 前	肥 前	17C後	輪花	00309
310	包含層	磁器 中皿	13.0 8.0 2.9 染付	模蘭文	模蘭文		肥 前	18C～幕末	蛇ノ目型高台	00310
311	包含層	磁器 小皿	10.4 4.4 2.7 染付	模蘭文・花文か	模蘭文・花文か		肥 前	18C		00311
312	包含層	磁器 皿	— — —				朝 妻	18C前	陶胎	00312
5004(13)313	包含層	磁器 大皿か	— 9.7 4.3 染付	牡丹文	牡丹文	満福	肥 前	17C末～18C		00313
314	包含層	軒丸瓦	長(5.1)幅13.8 厚13.5	風文 珠文8個	風文 珠文8個				陰刻	00314
315	包含層	棧形平瓦	長(2.0)幅7.2 厚4.8	菊花文 唐草文	菊花文 唐草文					00315
316	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00316
5004(13)317	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00317
5004(13)318	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00318
5004(13)319	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00319
5004(13)320	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00320
5004(13)321	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00321
5004(13)322	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00322
5004(13)323	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00323
5004(13)324	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00324
5004(13)325	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00325
5004(13)326	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00326
5004(13)327	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00327
5004(13)328	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00328
5004(13)329	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00329
5004(13)330	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00330
5004(13)331	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00331
5004(13)332	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00332
5004(13)333	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00333
5004(13)334	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00334
5004(13)335	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00335
5004(13)336	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00336
5004(13)337	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00337
5004(13)338	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00338
5004(13)339	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00339
5004(13)340	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00340
5004(13)341	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00341
5004(13)342	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00342
5004(13)343	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00343
5004(13)344	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00344
5004(13)345	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00345
5004(13)346	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00346
5004(13)347	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00347
5004(13)348	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00348
5004(13)349	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00349
5004(13)350	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00350
5004(13)351	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00351
5004(13)352	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00352
5004(13)353	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00353
5004(13)354	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00354
5004(13)355	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00355
5004(13)356	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00356
5004(13)357	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00357
5004(13)358	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00358
5004(13)359	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00359
5004(13)360	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00360
5004(13)361	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00361
5004(13)362	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00362
5004(13)363	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00363
5004(13)364	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00364
5004(13)365	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00365
5004(13)366	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00366
5004(13)367	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00367
5004(13)368	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00368
5004(13)369	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00369
5004(13)370	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00370
5004(13)371	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00371
5004(13)372	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00372
5004(13)373	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00373
5004(13)374	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00374
5004(13)375	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00375
5004(13)376	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00376
5004(13)377	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00377
5004(13)378	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00378
5004(13)379	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00379
5004(13)380	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00380
5004(13)381	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00381
5004(13)382	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00382
5004(13)383	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00383
5004(13)384	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00384
5004(13)385	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00385
5004(13)386	包含層	軒丸瓦	長(2.3)幅7.2 厚4.8							00386

第10表 魚屋町2次遺物一覧表④

※() : 現存値 No.1

図版・ 遺物番号	出土遺構	器 種	法 量		装 飾		銘・印	産地	年 代	備 考	通 信 登録番号
			口径	底径	器高	総計・最大					
5184(10) 561	中層北西隅2層	磁器 皿	—	—	—	—	朝	肥 前	1630～1640	輪花	00637
5184(3) 562	中層北西隅2層	磁器 段重蓋	13.4	—	3.0	染付	朝	肥 前	1630～1640	輪花	00638
5184(3) 563	中層北西隅2層	磁器 瓶	—	—	(8.3)	染付	朝	肥 前	17C	輪花	00639
5184(3) 564	中層北西隅2層	磁器 小皿	10.8	6.0	2.2	色絵	朝	肥 前	18C	輪花	00640
5184(2) 565	中層北西隅2層	磁器 碗	10.5	4.0	4.2	灰釉	朝	肥 前	17C後	—	00641
5184(1) 566	中層北西隅2層	磁器 蓋	7.0	4.7	1.9	鉄釉	朝	肥 前	17C後	—	00642
5184(2) 567	中層北西隅2層	磁器 蓋	14.3	4.3	5.6	染付	朝	肥 前	17C後	—	00643
5184(1) 568	中層北西隅2層	磁器 碗	9.0	3.5	7.5	染付	朝	肥 前	17C後	—	00644
5184(1) 569	中層北西隅2層	磁器 盃	7.0	3.0	2.9	灰釉	朝	肥 前	17C後	—	00645
5184(2) 570	中層北西隅2層	磁器 蓋	9.2	2.3	2.4	染付	朝	肥 前	17C後	—	00646
5184(1) 571	中層北西隅2層	磁器 小皿	7.6	3.6	3.8	鉄釉	朝	肥 前	17C後	—	00647
5184(2) 572	中層北西隅2層	磁器 碗	—	3.9	(5.1)	鉄釉	朝	肥 前	17C後	—	00648
5184(1) 573	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00649
5184(2) 574	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00650
5184(1) 575	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00651
5184(2) 576	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00652
5184(1) 577	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00653
5184(2) 578	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00654
5184(1) 579	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00655
5184(2) 580	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00656
5184(1) 581	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00657
5184(2) 582	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00658
5184(1) 583	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00659
5184(2) 584	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00660
5184(1) 585	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00661
5184(2) 586	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00662
5184(1) 587	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00663
5184(2) 588	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00664
5184(1) 589	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00665
5184(2) 590	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00666
5184(1) 591	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00667
5184(2) 592	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00668
5184(1) 593	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00669
5184(2) 594	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00670
5184(1) 595	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00671
5184(2) 596	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00672
5184(1) 597	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00673
5184(2) 598	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00674
5184(1) 599	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00675
5184(2) 600	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00676
5184(1) 601	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00677
5184(2) 602	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00678
5184(1) 603	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00679
5184(2) 604	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00680
5184(1) 605	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00681
5184(2) 606	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00682
5184(1) 607	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00683
5184(2) 608	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00684
5184(1) 609	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00685
5184(2) 610	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00686
5184(1) 611	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00687
5184(2) 612	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00688
5184(1) 613	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00689
5184(2) 614	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00690
5184(1) 615	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00691
5184(2) 616	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00692
5184(1) 617	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00693
5184(2) 618	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00694
5184(1) 619	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00695
5184(2) 620	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00696
5184(1) 621	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00697
5184(2) 622	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00698
5184(1) 623	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00699
5184(2) 624	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00700
5184(1) 625	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00701
5184(2) 626	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00702
5184(1) 627	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00703
5184(2) 628	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00704
5184(1) 629	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00705
5184(2) 630	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00706
5184(1) 631	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00707
5184(2) 632	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00708
5184(1) 633	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00709
5184(2) 634	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00710
5184(1) 635	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00711
5184(2) 636	中層北西隅2層	磁器 土鈴	—	—	6.7	—	朝	肥 前	17C後	—	00712

Ⅵ. ま と め

本章では第1・2次調査の成果を基に、近世の魚屋町の一部についてはあるが概観し、まとめたい。

1. 魚屋町の成立

久留米城下町の本格的な整備は元和7年(1621)有馬豊氏が筑後国北半を領し、久留米城を本拠としたことに始まる。前代の田中吉政・忠政親子の頃にも久留米城を中心として、柳原・元町・内町・長町・三本松町・洗切などの町屋が存在する小規模な城下町があったものらしいが、その実態は明らかではない。

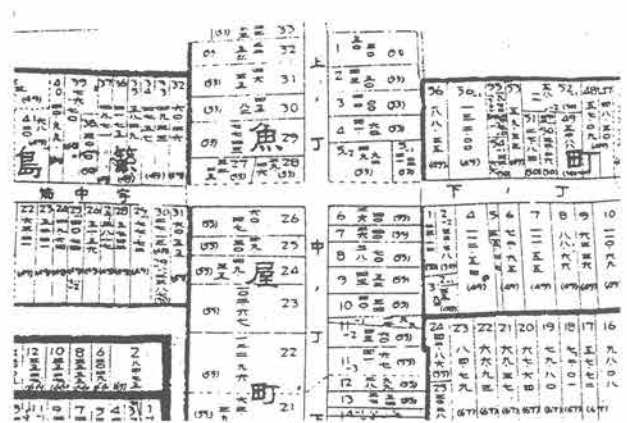
今回の調査で検出された遺構の中で田中氏代に属すると推定されるものは、築島地区S X 92である。この遺構は今回の調査では時期を明確にし得なかったが、17世紀前半代には埋没しており、その時期や検出状況から判断して、呉服町遺跡S X 5と一連のものである可能性が高く、田中氏代の城下町に関連する溝、もしくは堀と想定される。調査地付近は南に所在する池町川から延びる低地に当たり、現在でも周辺の台地部分とは約2mの比高差を示す。現地表からS X 92検出面までは約2.2mを測り、当時台地部分との比高差がもっと大きく、S X 92検出面より約30~50cm上位の面で検出した下層の遺構群からは17世紀中〜後半代の遺物が出土すること、さらに寛政8年(1796)の宮原東平の記述に「宮原大膳久留米柳原二住、家来二人、魚商人となる。有馬氏代、西魚屋町へ移る」とあることなどを考慮すれば、田中氏代のこの地は低地として余り利用されることはなく、元和7年以降に土地の嵩上げなどが行われ、町屋が整備されたものと判断される。なお、今回S D 1を検出したことにより、北側の亀屋町から南の田町方面へ延びる幅4m(約2間)の南北道路の両側に広がる魚屋町は、呉服町遺跡で検出された南北溝S D 11とS D 1の間、東西55mの範囲を有することが判明した。

2. 西魚屋町上ノ丁の屋敷割

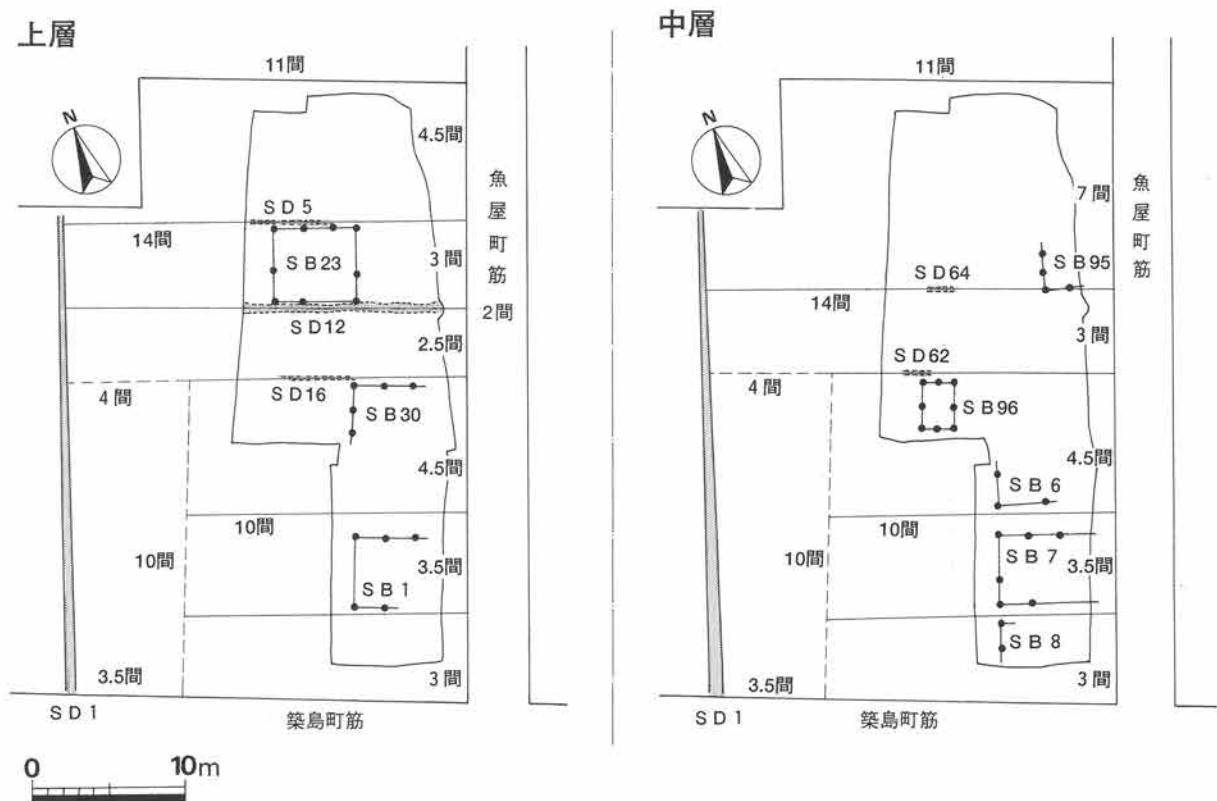
調査地は大正時代の土地台帳『久留米市土地寶典』を参照すると、魚屋町上ノ丁の西側、及び築島町字中筋の北側東端部に相当する。調査対象地の南限は東方約200m付近に現存する旧御使者屋跡の石垣南側のラインを西側に延長した線上にあり、東限は調査地東側を通る南北道路が魚屋町筋を踏襲しているものと見られ、調査地と現在の道路との境界がそのまま町屋と道路との境界を示すものである可能性が高いため、対象地の南東隅、現在の東西道路と南北道路とが交差する地点を上ノ丁西側の南端とした。その地点から魚屋町と両替町との境となる41m北側の部分までを調査しており、調査成果を基に、近世後期に当たる上層・同中期に当たる中層段階について西魚屋町上ノ丁の屋敷割を推定したのが第56図である。



第54図 明治時代の屋敷割図



第55図 『久留米市土地寶典』



第56図 西魚屋町上ノ丁屋敷割推定復元図 (1/400)

まず、上層段階についてであるが、第1次調査では18世紀後半代頃、第2次調査では近世後期～幕末と若干時期が異なっているが、魚屋町地区では寛政11年（1799）11月に築島町・今町の90軒を焼く火災以降は幕末に至るまで災害等によってこの付近の屋敷割が大きく変化する要因はないものと判断し、1間を6尺4寸（194cm）として推定した屋敷割が第56図左側の図である。南西部に南北に長い区画が見られるが、この屋敷割は第54図に掲げた明治時代の字図にも示されており、この部分は魚屋町筋ではなく築島町筋に面しているため、南面を表とした土地利用がなされたものであろう。但し、この部分は未調査であるため、第1次調査終了時まで残されていた南北棟建物の境界を参考に推定し、破線で示した。また、南端から北側3番目の区画は間口4.5間としたが、第1・2次調査トレンチの境界未調査部分に当たり、間口2間半程度の2区画となる可能性もある。北端部については大正期頃の半地下倉庫などによって攪乱され情報がないため一応間口4間半とした。奥行は南半部が10間、中央の2区画は魚屋町筋が22度東偏するのに対し、SD1が20度東偏と厳密には並行でないため、北側へ行くほど魚屋町筋とSD1の間隔が若干開き、13間半から14間を示す。

第56図右側は17世紀後半代～18世紀前半代頃の屋敷割りを推定復元したものである。これは享保11年（1726）通称田代火事が原因と推定される火災層の除去後に検出した遺構群から復元したもので、第2次調査で屋敷境の溝が若干北側へ移動していることを勘案しても、屋敷割自体には特に大きな変更は見られない。第1次調査下層においても一部を検出したのみなから、基礎石はほぼ同じ位置で検出されていることなどから推定すれば、西魚屋町上ノ丁については、城下町建設段階から基本となる屋敷割は余り変更されることなく、幕末迄続いていたものと考えられよう。

報告書抄録

ふりがな	くるめじょうかまち うおやまちいせき だい1・2じょうさ							
書名	久留米城下町 魚屋町遺跡 第1・2次調査							
編著者名	水原 道範 園井 正隆							
編集機関	久留米市教育委員会							
所在地	〒830 福岡県久留米市城南町15-3 TEL0942-30-9225							
発行年月日	1997年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査の原因
		市町村	遺跡番号					
うおやまちいせき 魚屋町遺跡	福岡県久留米市 城南町13-21他 6筆	40203		33度 18分 59秒	130度 30分 33秒	1次 19960207～ 19960610 2次 19960925～ 19961121	1次 458㎡ 2次 265㎡	事務所建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
魚屋町遺跡 第1次調査	町家跡	江戸	南北溝	1条	近世陶磁器		魚屋町と築島町の町境溝を検出。魚屋町の東西範囲を確定。	
			土坑	27基	瓦類			
			井戸	5基	古銭、煙管			
			溝状遺構	1	木製品			
			礎石建物	4棟				
第2次調査	町家跡	江戸	礎石建物	4棟	近世陶磁器		魚屋町筋西側の近世屋敷境の溝を検出。	
			井戸	3基	瓦類			
			溝	6条	古銭、煙管			
			土坑	13基	銅製品			
			竈	3基				

久留米城下町

魚屋町遺跡 — 第1・2次調査 —

久留米市文化財調査報告書 第123集

平成9年1月31日

発行：久留米市教育委員会

〒830 久留米市城南町15-3

編集：文化部文化財保護課

〒830 久留米市城南町15-3

☎ 0942-30-9225

印刷：株式会社 東広

〒839 久留米市御井旗崎5-1-20

☎ 0942-43-9513